

1. 沖縄県の自然とレッドデータブック

1. 1 沖縄県の自然環境について

(1) あらまし

沖縄県は、日本列島の南西部の南西諸島に位置しており、160（面積 0.01km² 以上）の島々からなる島嶼県である。南西諸島は、北および東は種子島から奄美大島、沖縄島、宮古島、石垣島、西表島を経て南は波照間島、西は与那国島まで連なる琉球列島と、大東諸島および尖閣諸島から構成されており、このうち、沖縄県は琉球列島の南半分を占める沖縄諸島と先島諸島（宮古諸島と八重山諸島が含まれる）、大東諸島および尖閣諸島から成り立っている。沖縄県の総面積は約 2,281 km² であり、このうち沖縄島が県全体の約 53%（1,208 km²）を占めており、西表島、石垣島、宮古島、久米島を加えた 5 島が全体の約 85%を占める。本県の気候は、亜熱帯海洋性気候に属し温暖多湿であり、月平均気温が 20℃を超える月は 8～9 ヶ月に及び年間の気温差も小さいなど、国内の他の地域とは異なる特徴を有している。年間の降水量は約 2,000mm を超えて多いが、梅雨時期から夏季にかけて少雨である年には、しばしば渇水を生じることもある。台風の接近数が多いことも本県に特徴的である。

沖縄県の島々のうち、沖縄島や伊平屋島、久米島、石垣島、西表島などの山地が発達した島々では、イタジイ（スダジイ）やオキナワウラジロガシ、リュウキュウナガエサカキなどの常緑広葉樹林が生育する森林が広がり、沢や河川などの水系も発達している。沖縄県の最高峰は石垣島の於茂登岳の 526m であり、高標高の山岳はみられないものの、標高 400m 前後を超える場所では雲霧林やそれに類した環境も見られる。沖縄島の石灰岩地域では、常緑広葉樹のガジュマルやアマミアラカシ、クスノハカエデが多く見られるなど、地質によっても植生が異なっている。宮古島や波照間島など比較的平坦な島々では、ガジュマルやオオハマボウ、ハスノハギリなどの隆起石灰岩地や海岸沿いに特徴的な森林が見られるほか、南・北大東島ではピロウ（ダイトウピロウ）が優占するなど、地域的にも多様な植生環境が見られる。また、本県では石灰岩地を中心に地下水系が発達しており、600 箇所以上の鍾乳洞の存在することが明らかとなっている。

沿岸域については、外洋に浮かぶ大東諸島や尖閣諸島をのぞいた多くの島々でサンゴ礁やアマモ類など海草藻場の発達が見られるほか、河口や内湾が発達する場所では耐塩性のあるオヒルギなどのマングローブ植生や泥地や砂泥地、礫地などさまざまなタイプの干潟環境が形成されている。こうした河口域や沿岸の浅海域では多種のサンゴや海草藻類の生育が見られ、魚類や貝類、甲殻類など非常に多種の生物の生活の場となっているなど、世界的に重要な自然環境であることが広く認識されている。

(2) 沖縄県における野生動植物とその現状

沖縄県に多様な野生動植物が生息することは、琉球列島のなりたちも深く関係しており、海洋によって島ごとに隔離された環境や亜熱帯の海洋性気候の影響を受け、それぞれの島々や地域で独自に進化したと考えられる多くの固有種や固有亜種が生息・生育することで多種多様な生物相を創り出している。これらのなかには琉球列島が大陸と陸続きの頃に移動してきたものが、琉球列島の成立の中で島に取り残された遺存種も含まれており、その場合、近縁種に比較してより原始的な形質をもっていたり、由来する大陸ではすでに絶滅しているような種も含まれており、学術的にも非常に貴重である。

しかしながら、人が生活活動を営む上でやむをえず土地の改変等の行為を行う際は、野生動植物の生息・生育地を縮小・分断させたり、減少させるなどの影響を少なからず引き起こしている。また、世界規模での経済交流の活発化にともない、本県でも外来生物の侵入・定着する危険性が增大しており、生態系の攪乱が危惧されていることに加え、一部のマニア等による過度な採取行為も本県の自然環境にとって脅威となっている。このほか、2016 年には石垣島と西表島の間に位置する石西礁湖で海水温上昇による白化現象に起因して 7 割のサンゴが死滅するなど地球規模の環境変化による影響の事例も数多く報告されるようになってきている。島嶼という限られた閉鎖的環境にある本県では、個々の影響要因が野生動植物や生態系に与える

インパクトの程度が大きくなりがちである。こうした点を踏まえ野生動植物の保護および自然生態系の保全を図ることが、ひきつづき喫緊の課題となっている。

今回改訂においては、絶滅種とされていた鳥類のダイトウグイスと貝類のミヤコオカチグサの現生が明らかとなった。一方、哺乳類のミヤココキクガシラコウモリと鳥類のダイトウノスリ、貝類のリュウキュウカワザンショウ及びキルンの計4種が新たに絶滅種に選定されており、本県の自然環境を取り巻く現状は予断を許さない状況が継続していると考えられる。

なお、近年、DNA解析にもとづく分子系統学的研究により、外部形態でこれまで同種と考えられていたものが別種であることが明らかになる事例やその逆の例、また分類自体に大きな見直しを要する事例が少なからずあることが明らかとなってきている。本改訂においては、可能なかぎり最新の分類等の知見に基づく検討が行われている。

〈参考文献〉

- 青木 久・大城逸朗ほか, 2015. 地誌. “沖縄県史 各論編第1巻 自然環境”, 沖縄県教育委員会, 那覇, 139-236.
- 安座間安史・伊澤雅子ほか, 2015. 陸域の動物. “沖縄県史 各論編第1巻 自然環境”, 沖縄県教育委員会, 那覇, 573-701.
- 安溪遊地・池原直樹ほか, 2015. 陸域の植物. “沖縄県史 各論編第1巻 自然環境”, 沖縄県教育委員会, 那覇, 415-572.
- 池原貞雄, 1981. 東洋のガラパゴス. “琉球列島の自然史”, 木崎甲子郎(編), 築地書館, 東京, 86-98.
- 池原貞雄, 1984. 動物. “全国大会記念誌 沖縄の生物”, 沖縄生物教育研究会, 那覇, 33-37.
- 石島 英・伊志嶺安進ほか, 2015. 気象・海象. “沖縄県史 各論編第1巻 自然環境”, 沖縄県教育委員会, 那覇, 61-138.
- 沖縄県環境部自然保護・緑化推進課, 2015. 平成26年度沖縄島北部地域生態系保全事業(マングース対策事業)報告書. 沖縄県環境部自然保護・緑化推進課, 那覇, 198pp.
- 沖縄県企画部統計課, 2016. 平成28年沖縄県勢要覧. 沖縄県企画部統計課, 那覇, 12pp.
- 環境省自然環境局自然環境計画課, 2017. 西表石垣国立公園 石西礁湖のサンゴ白化現象の調査結果について. 平成29年1月10日報道発表資料, <http://www.env.go.jp/press/103439.html>.【平成29年2月20日閲覧】
- 亀田勇一・平野尚浩, 2016. 奄美群島における陸産貝類の多様化パターンと系統地理. “奄美群島の自然史学”, 水田 拓(編著), 東海大学出版部, 神奈川, 57-76.
- 財団法人日本気象協会沖縄支店(編), 1995. 沖縄の気象暦. 財団法人日本気象協会沖縄支店, 那覇, 134pp.
- 当山昌直, 2015. 総論. “沖縄県史 各論編第1巻 自然環境”, 沖縄県教育委員会, 那覇, 1-60.
- 目崎茂和, 1981. 島の地形. “琉球列島の自然史”, 木崎甲子郎(編), 築地書館, 東京, 40-59.
- 安間繁樹, 2001. 陸域列島 生物の多様性と列島のおいたち, 東海大学出版会, 東京, 195pp.
- 琉球大学21世紀COEプログラム編集委員会(編), 2006. 美ら島の自然史 サンゴ礁島嶼系の生物多様性. 東海大学出版会, 神奈川, 435pp.

1. 2 改訂・沖縄県版レッドデータブック 第3版について

(1) 背景

世界的に地球環境の危機が叫ばれており、現在は1年間で約4万種が絶滅しつつあると推定されている(Myers, 1979)。熱帯林の減少を始め生育・生息地の破壊や改変等、野生生物への配慮を欠いた人間の行動が、この大規模な種の絶滅を引き起こしている。いったん絶滅してしまった種は、もはや人間の手で再生することは不可能である。

種の絶滅の防止は、人類にとって地球の生態系を守るため緊急課題であり、豊かな野生生物相を保護し、生育・生息地を次世代に引き継いでいくことは、私たちに課された重大な責務だと考える。そのことから種の絶滅を防ぐには、まず、絶滅のおそれがある種の現状を的確に把握する必要がある。

IUCN（国際自然保護連合：International Union for Conservation of Nature and Natural Resources）は、世界的な規模で絶滅のおそれのある動植物の種を選定し、その生育・生息状況等を明らかにした資料を1966年に作成した。これがいわゆるレッドデータブックといわれるものである。

このレッドデータブックは、国際的に野生生物の保護を取り決めたワシントン条約や各国の保護政策の基礎資料として広く利用されている。IUCNは絶滅のおそれのある種の見直しを行いレッドリストとして継続的に公表しており、2016年2月時点で動物及び植物それぞれ1万種を超え、合計で23,928種の野生動植物が絶滅危惧種に選定されている。

我が国では、野生生物を人為的に絶滅させないために絶滅のおそれのある種を的確に把握し、一般への理解度を広める必要があることから、環境省では、1986年より「緊急に保護を要する動植物の種を選定調査」を実施し、その結果をレッドデータブック「日本の絶滅のおそれのある野生生物脊椎動物編」、「同無脊椎動物編」として1991年に取りまとめている。しかし、IUCNで採択された新しいカテゴリーの考え方を踏まえ、また、生育・生息状況や生育・生息環境の変化に関する最新の知見等に基づき、レッドデータブックの見直しを行う必要性を生じたことから、環境省では1995年より、分類群ごとに見直しに着手し、まず、分類群ごとに順次レッドリスト（レッドデータブックの基礎となる日本の絶滅のおそれのある野生生物の種リスト）をとりまとめ公表し、その後、爬虫類・両生類から順次分類群ごとにレッドリスト及びレッドデータブック「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物」を公表している。現在、レッドリストは2015年の第4次見直しリスト、レッドデータブックは2014年のレッドデータブック2014が公表されている。

各都道府県では、環境省やIUCNの選定状況を参考としながら、地域性の視点で野生生物の絶滅の危険性を検討し、独自の基準を交えながらレッドデータブックの作成を行っている。沖縄県では、1996年に初版のレッドデータブックである「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）」を公表した。初版刊行翌年の1997年には、5か年をかけて、未決定種のカテゴリーに選定された動植物の現状の把握などを目的とした現地調査を実施した。その後、環境省やIUCNの改訂に伴い、沖縄県版レッドデータブックも見直しの機運が高まり、沖縄県は2001年から改訂に着手した。環境省や他の都道府県を参考としながら、沖縄県の地域性や独自性を考慮したカテゴリーの見直しを行ったうえで、改訂第2版として2005年に動物編を、2006年に菌類編・植物編を公表した。沖縄県版レッドデータブックは、生息・生育状況に生じた変化や新たな研究等の知見に応じて、継続的に見直しを行うことが求められている。そのことから沖縄県は2013年より再度の見直しに着手し、このほど改訂第3版として動物編の刊行を行うものである（菌類編・植物編は2018年の発刊を予定）。

亜熱帯に位置する本県の自然環境は、その学術的な重要性や希少性のみならず、その価値は国内外を問わず広く認知・評価されているところである。また、本改訂までの間には、石垣島(2007年)や慶良間諸島(2014年)、沖縄島北部やんばる地域(2016年)が新たに国立公園化を達成するなど、本県の自然環境に対する注目度は日々増している状況である。本誌に掲載される絶滅のおそれのある野生生物は本県の生態系の独自性を示す象徴ともいえ、その生存が図れるように留意することは本県の豊かな自然環境や多様な生物多様性を保全するうえで非常に重要となっている。

（２）本県レッドデータブック改訂の目的

沖縄県においては、亜熱帯海洋性気候のもとでイリオモテヤマネコ、ノグチゲラ、ヤンバルクイナなどの数多くの固有種を含む野生生物が生育・生息しており、学術的にも評価の高い地域として国内外から注目されている。一方、各種開発に伴う森林伐採や土地改変等による自然環境の改変や外来動植物による攪乱等もあいまって野生生物の生息・生育状況は深刻になりつつある。

このような状況を踏まえ、沖縄の野生生物相の現状を把握し、代々引き継いできた野生生物およびその生息・生育地を次世代に引き継ぐための保護対策を講ずる基礎資料として、沖縄県版レッドデータブックの作成を行うこととなった。

（３）改訂第3版の作成基本方針

沖縄県に生息・生育する野生生物から「改訂・沖縄県版レッドデータブック第3版」の掲載種の選定を行った。改訂の基本方針として、本改訂では生息・生育状況に生じた変化や新たな研究等の知見に応じた継続的な見直しの必要性を加え、以下の4点を基本とした。

- ① 環境省版レッドデータブック等における概念を踏まえつつ、沖縄県の地域性、独自性にも配慮する。
- ② 環境省版レッドデータブック等にあげられていない沖縄県独自の種もリストアップする。
- ③ 現在の文献・資料ではレッドデータブックに掲載してよいのか判断がつかない種および今後詳細な調査を要する種については、情報不足種としてリストアップする。
- ④ 生息・生育状況に生じた変化や新たな研究等の知見に応じて、継続的に見直しを行う。

今回改訂を行うにあたり、「沖縄県版レッドデータブック改訂委員会」を設置して、初年度(平成25年度)に改訂の基本方針について検討を行った。改訂委員会は沖縄県の自然環境に広く見識を有する識者に加え、各種レッドデータブックの作成に携わった経験のある識者に加え委員長をふくむ12名で構成した。

初年度後半には、分類群別に、動物部門で8分科会、植物部門で4分科会の計12分科会（合計74名委員）からなる「分科会（ワーキンググループ）」の立ち上げを行った。各分科会は、掲載候補種のリストアップや調査を含むデータの収集・整理、検討、掲載種の選定、執筆までおこない、代表委員には分科会内の調整やとりまとめにあたりご尽力いただいた。

同じく初年度後半には、「沖縄県版レッドデータブック編集委員会」を立ち上げ、各分科会の代表委員が編集委員を兼任した上で刊行までの各年度に1回から2回の頻度で全体討議を行い、基本方針のもと、実務上の課題や分科会の進捗状況、各論方針など各種の調整および検討を行った。編集委員会は、各専門分科会（ワーキンググループ）の代表委員からなる14名の編集委員（うち2分科会は2名委員）で構成し、作成は各分科会の責任編集としたことから委員長を置かず、事務局が会議進行を行った。

（４）沖縄県版レッドデータブックの意義

沖縄県版レッドデータブックは、絶滅の危機に瀕する野生生物の保護を行うための基礎資料として以下に示す4点の重要な意義がある。

1) 自然環境保護のための指針として

近年、県内では各種開発に伴う森林伐採や土地改変などにより、自然環境が悪化しつつある。そのことから野生生物およびその生育・生息地を次世代に引継ぐためには、沖縄県版レッドデータブックを踏まえた指針としての役割を果たすものである。

2) 沖縄県の貴重な文化財として

自然および文化のなりたちにはその背景に、各地域における独自の歩みを見ることが出来る。この自然や文化を保護し探求していくことは、地域文化を守り育てるうえで大変有意義である。特に天然記念物の指定を受け保護されている種や学術上貴重で、かつ希少な種の生育・生息の状況を知るうえで重要な資料となる。

3) 遺伝的多様性の保護として (遺伝子資源の重要性)

特に植物の場合であるが、バイオテクノロジーの進歩によって、遺伝子組み替え技術を応用した育種開発が進み、全ての野生種が利用可能な遺伝子資源として重要な価値を持つことになった。

このことから野生種の遺伝的多様性の保全は重要なテーマであり、沖縄県版レッドデータブックはその基礎的な役割を果たすものである。

4) 教育教材および研究資料として

野生生物は、生物学の教育および研究を行う上で欠かすことのできないものであり、野生生物に関する情報を集積した沖縄県版レッドデータブックは、これらの情報・教材として、重要な役割を果たすものである。

(5) 改訂・沖縄県版レッドデータブック第3版 作成体制

1) 改訂委員会 (敬称略、五十音順。所属・役職は平成25年度当時)

委員長	東 清二	琉球大学名誉教授
委員	石井 信夫	東京女子大学現代教養学部教授
委員	香村 眞徳	琉球大学名誉教授
委員	佐々木健志	琉球大学資料館(風樹館)技官
委員	諸喜田茂充	琉球大学名誉教授
委員	新城 和治	元琉球大学教育学部教授
委員	千木良芳範	元沖縄県立博物館美術館副館長
委員	寺嶋 芳江	琉球大学熱帯生物圏研究センター教授
委員	当山 昌直	沖縄生物学会会員
委員	戸田 守	琉球大学熱帯生物圏研究センター西原研究施設准教授
委員	成瀬 貫	琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設助教
委員	横田 昌嗣	琉球大学理学部海洋自然科学科教授

2) 編集委員会 (敬称略)

哺乳類担当	伊澤 雅子	琉球大学理学部教授
鳥類担当	嵩原 建二	元沖縄県立桜野特別支援学校校長
爬虫類・両生類担当	戸田 守	琉球大学熱帯生物圏研究センター西原研究施設准教授
魚類担当	立原 一憲	琉球大学理学部准教授
甲殻類担当	成瀬 貫	琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設准教授
昆虫類担当	小濱 継雄	琉球大学博物館(風樹館)協力研究員
クモ形類・多足類担当	千木良芳範*	宜野湾市立博物館館長
クモ形類・多足類担当	佐々木健志	琉球大学博物館(風樹館)学芸員
貝類担当	久保 弘文	沖縄県水産海洋技術センター研究主幹
菌類担当	寺嶋 芳江	琉球大学熱帯生物圏研究センター教授
維管束植物担当	横田 昌嗣*	琉球大学理学部教授
維管束植物担当	阿部 篤志	一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センター植物研究室係長(学芸員)
蘚苔類担当	山口富美夫	広島大学大学院理学研究科教授
藻類担当	香村 眞徳	琉球大学名誉教授

*複数名の編集委員による分科会の代表委員を示す

3) 動物編・各分類群分科会 (敬称略、委員は五十音順)

哺乳類	会長 委員	伊澤 雅子 内田 詮三 田村 常雄 中本 敦 丸山 勝彦	琉球大学理学部教授 一般財団法人美ら島財団沖縄美ら海水族館名誉館長 岡山理科大学理学部動物学科講師 沖縄県立南風原高等学校
鳥類	会長 委員	嵩原 建二 河野 裕美 小高 信彦 原戸鉄二郎	元沖縄県立桜野特別支援学校校長 東海大学沖縄地域研究センター教授 国立研究開発法人森林総合研究所九州支所主任研究員 竹富町立西表中学校教諭
爬虫類・両生類	会長 委員	戸田 守 千木良芳範 当山 昌直 富永 篤	琉球大学熱帯生物圏研究センター西原研究施設准教授 宜野湾市立博物館館長 沖縄生物学会会員 琉球大学教育学部准教授
魚類	会長 委員	立原 一憲 遠藤(高田)未来美 前田 健	琉球大学理学部准教授 東京大学大気海洋研究所学振特別研究員 沖縄科学技術大学院大学マリングenomixユニット研究員
甲殻類	会長 委員	成瀬 貫 大澤 正幸 駒井 智幸 佐伯 智史 長井 隆 藤田 喜久 前之園唯史	琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設准教授 島根大学汽水域研究センター特任助教 千葉県立中央博物館動物学研究科主任上席研究員 R i v u s 一般財団法人沖縄県環境科学センター 沖縄県立芸術大学全学教育センター准教授 株式会社かんきょう社
昆虫類	会長 委員	小濱 継雄 青柳 克 木村 正明 佐々木健志 杉本 雅志 野林 千枝 林 正美 比嘉 正一 松村 雅史 焼田理一郎	琉球大学博物館(風樹館)協力研究員 株式会社イーエーシー自然環境課主任研究員 有限会社ガショウ (GA-SHOW) 代表取締役 琉球大学博物館(風樹館)学芸員 沖縄昆虫同好会会員/日本直翅類学会会員 沖縄昆虫同好会会員/コガネムシ研究会会員 埼玉大学教育学部名誉教授 沖縄昆虫同好会会長/浦添大公園業務主任(学芸員) 日本甲虫学会会員 日本トンボ学会会員
クモ形類・多足類	会長 委員	千木良芳範 唐沢 重考 佐々木健志 谷川 明男 田村 常雄 鶴崎 展巨 名嘉 猛留 中村 泰之 西山 桂一	宜野湾市立博物館館長 鳥取大学地域学部教授 琉球大学博物館(風樹館)学芸員 東京大学大学院農学生命科学研究科農学特定支援員 鳥取大学地域学部教授 日本蜘蛛学会会員 琉球大学博物館(風樹館)研究員 株式会社沖縄環境保全研究所計画課課長補佐
貝類	会長 委員	久保 弘文 上島 励 小澤 宏之 亀田 勇一 黒住 耐二 早瀬 善正 福田 宏	沖縄県水産海洋技術センター研究主幹 東京大学大学院理学系研究科准教授 一般財団法人沖縄県環境科学センター自然環境課課長 国立科学博物館分子生物多様性研究資料センター特定非常勤研究員 千葉県立中央博物館資料管理研究科主任上席研究員 株式会社東海アクアノーツ 岡山大学農学部准教授

4) 動物編・各分類群分科会執筆協力者 (敬称略、氏名は五十音順)

鳥類		高木 昌興 水谷 晃	北海道大学大学院理学研究院教授 東海大学沖縄地域研究センター研究員
爬虫類・両生類		河津 勲	一般財団法人沖縄美ら島財団国営公園管理部動物管理チ

		田中 聡 平手 康市	ームサブリーダー 知念高等学校教諭／沖縄両生爬虫類研究会評議員／希少 野生動植物種保存推進員(環境省) 特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会副会長
魚	類	國島 大河 櫻井もも子	琉球大学大学院理工学研究科博士後期課程 琉球大学大学院理工学研究科博士前期課程
甲	殻 類	吉田 隆太	琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設技術補佐 員
昆	虫 類	北野 忠 中島 淳 西山 桂一	東海大学教養学部教授 株式会社沖縄環境保全研究所計画課課長補佐
クモ形類・多足類		須黒 達巳 戸部 海童	慶應義塾幼稚舎教諭 特定非営利活動法人ホテルとサンゴの島から職員
貝	類	齊藤 匠 平野 尚浩 和田慎一郎	東北大学大学院生命科学研究科学振特別研究員 東北大学東北アジア研究センター学振特別研究員 国立研究開発法人森林総合研究所学振特別研究員

5) 作成事務局

仲座寛泰 上里辰幸 西山桂一 西垣孝治 角田正美 伊仲なつめ 我如古勤子 安次嶺要 比嘉高明 渡嘉敷真司
末吉孝太郎 弘中 豊 新里仁奈 森根初美 宮内由紀子 西銘有紀子 (以上、株式会社沖縄環境保全研究所)

(6) 沖縄県版レッドデータブックの構成内容

沖縄県版レッドデータブックは、動物編および菌類編、植物編で構成され、それぞれ掲載種を選定したうえで種の解説を行った。掲載種はリスト化し、写真を巻頭に示した。巻末には初版以降の沖縄県版レッドデータブック掲載種と環境省版レッドリスト掲載種のカテゴリー対照表を収録した。

(7) 改訂第3版のカテゴリー

IUCN によるカテゴリー (IUCN, 1994) や環境省のレッドリストとの整合性の観点から、改訂第2版の作成時においては、沖縄県レッドデータブック検討委員会内にカテゴリー委員会を設置し、半年以上かけて沖縄県のカテゴリー区分や基本概念の案を作成し、2001年の沖縄県レッドデータブック検討委員会において了承され、決定された。改訂第3版においても、カテゴリー区分及びカテゴリー定義についてはこれを踏襲した。

沖縄県の現行カテゴリーの区分は表 1-1 のとおりである。右段は旧カテゴリーを示しているが、それは必ずしも現行カテゴリーと一致するものではなく、ほぼ近似しているという意味である。また、表 1-2(1)～(4)に現行カテゴリーの定義を示した。

表 1-1 沖縄県の現行カテゴリーおよび旧カテゴリー対照表

現行カテゴリー (第2版 2005・第3版 2017)	旧カテゴリー (初版 1996)
絶滅 EX(Extinct)	絶滅種
野生絶滅 EW(Extinct in the Wild)	
絶滅危惧 I 類 (CR+EN) ・絶滅危惧 I A 類 CR(Critically Endangered) ・絶滅危惧 I B 類 EN(Endangered)	絶滅危惧種
絶滅危惧 II 類 VU(Vulnerable)	危急種
準絶滅危惧 NT(Near Threatened)	希少種
情報不足 DD(Data Deficient)	未決定種
絶滅のおそれのある地域個体群 LP(Threatened Local Population)	地域個体群

表 1-2(1) カテゴリー定義 (定性的要件)

沖縄県のカテゴリー定義		
区分および基本概念	定性的要件	
絶滅 EX (Extinct) 沖縄県ではすでに絶滅したと考えられる種	①過去に沖縄県に生育・生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、沖縄県ではすでに絶滅したと考えられる種。 ②県内の在来個体群は絶滅しているが、県外から移入された個体群が生存している種。	
野生絶滅 EW (Extinct in the Wild) 沖縄県では飼育・栽培下でのみ存続している種	過去に沖縄県に生育・生息したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、沖縄県において野生ではすでに絶滅したと考えられる種。 【確実な情報があるもの】 ①信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。 ②信頼できる複数の調査によっても、生育・生息が確認できなかった。 【情報量が少ないもの】 ③過去50年間前後の間に、信頼できる生育・生息の情報が得られていない。	
絶滅危惧 THREATENED	絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 沖縄県では絶滅の危機に瀕している種 沖縄県では現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。 絶滅危惧 I A 類 CR (Critically Endangered) 沖縄県では、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 絶滅危惧 I B 類 EN (Endangered) 沖縄県では I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ①既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ②既知のすべての生育地・生息地で、生育・生息条件が著しく悪化している。 ③既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種又は同種の別個体群が侵入している。 ⑤ほとんどの分布域において、生存を脅かすおそれのある競争種や天敵が侵入している。 【情報量が少ないもの】 ⑥それほど遠くない過去 (30~50年) の生育・生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。
	絶滅危惧 II 類 VU (Vulnerable) 沖縄県では絶滅の危機が増大している種 沖縄県では、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが考えられるもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ②大部分の生育地・生息地で生育・生息条件が明らかに悪化しつつある。 ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に、交雑のおそれのある別種又は同種の別個体群が侵入している。 ⑤分布域の相当部分に、生存を脅かすおそれのある競争種や天敵が侵入している。

注) 種：動物では種および亜種、植物では種、亜種、変種を示す。

表 1-2(2) カテゴリー定義 (定性的要件)

沖縄県のカテゴリー定義	
区分および基本概念	定性的要件
<p>準絶滅危惧 NT (Near Threatened) 沖縄県では存続基盤が脆弱な種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。</p>	<p>次に該当する種 生育・生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後更に進行するおそれがあるもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> a) 個体群が減少している。 b) 生育・生息条件が悪化している。 c) 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 d) ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種又は同種の別個体群が侵入している。 e) ほとんどの分布域において、生存を脅かすおそれのある競争種や天敵が侵入している。
<p>情報不足 DD (Data Deficient) 沖縄県では評価するだけの情報が不足している種</p>	<p>環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性 (具体的には次のいずれかの要素) を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種</p> <ul style="list-style-type: none"> a) どの生育地・生息地においても生育・生息密度が低く希少である。 b) 生育地・生息地が局限されている。 c) 生物地理上、孤立した分布特性を有する (分布域がごく限られた固有種等)。 d) 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。
<p>絶滅のおそれのある地域個体群 LP (Threatened Local Population) 沖縄県で地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれの高いもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する地域個体群</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生育・生息状況、学術的価値等の観点から、レッドデータブック掲載種に準じて扱うべきと判断される種の地域個体群で、生育域・生息域が孤立しており、地域レベルで見た場合危険が増大していると判断されるもの。 ②地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅に瀕しているか、その危険が増大していると判断されるもの。

注) 種：動物では種および亜種、植物では種、亜種、変種を示す。

表 1-2(3) カテゴリー定義 (定量的要件)

沖縄県のカテゴリー定義		
区分および基本概念	定量的要件	
絶滅 EX (Extinct) 沖縄県ではすでに絶滅したと考えられる種	—	
野生絶滅 EW (Extinct in the Wild) 沖縄県では飼育・栽培下でのみ存続している種	—	
絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 沖縄県では絶滅の危機に瀕している種 沖縄県では現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	—	
絶滅危惧 T H R E A T E N E D	絶滅危惧 I A 類 CR (Critically Endangered) 沖縄県では、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。	A. 次のいずれかの形で個体数の減少が見られる場合。 1. 最近10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、80%以上の減少があったと推定される。 2. 今後10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、80%以上の減少があると予測される。 B. 出現範囲あるいは生育地・生息地面積、成熟個体数等に、最近極度の減少がみられるか、今後継続的な減少が予想され、かつ生育地・生息地が以下に限定される場合。 ○生育地・生息地が過度に分断されているか、ただ1ヶ所の地点(水系)に限定されている。 C. 個体群の成熟個体数が250未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。 1. 3年間もしくは1世代のどちらか長い期間に25%以上の継続的な減少が推定される。 2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ個体群が構造的に過度の分断を受けるか全ての個体が1つの亜個体群に含まれる状況にある。 D. 成熟個体数が50未満であると推定される場合。 E. 数量解析により、10年間、もしくは3世代のどちらか長い期間における絶滅の可能性が50%以上と予測される場合。
	絶滅危惧 I B 類 EN (Endangered) 沖縄県では I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。	A. 次のいずれかの形で個体数の減少が見られる場合。 1. 最近10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定される。 2. 今後10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があると予測される。 B. 出現範囲あるいは生育地・生息地面積、成熟個体数等に、最近極度の減少がみられるか、今後継続的な減少が予想され、かつ生育地・生息地が以下に限定される場合。 ○生育地・生息地が過度に分断されているか、5ヶ所以下の地点(水系)に限定されている。 C. 個体群の成熟個体数が2,500未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。 1. 5年間もしくは2世代のどちらか長い期間に20%以上の継続的な減少が推定される。 2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ個体群が構造的に過度の分断を受けるか全ての個体が1つの亜個体群に含まれる状況にある。 D. 成熟個体数が250未満であると推定される場合。 E. 数量解析により、20年間、もしくは5世代のどちらか長い期間における絶滅の可能性が20%以上と予測される場合。

注) 種：動物では種および亜種、植物では種、亜種、変種を示す。

表 1-2(4) カテゴリー定義 (定量的要件)

沖縄県のカテゴリー定義	
区分および基本概念	定量的要件
<p>絶滅危惧Ⅱ類 VU (Vulnerable) 沖縄県では絶滅の危機が増大している種</p> <p>沖縄県では、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが考えられるもの。</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">絶滅危惧 THREATENED</p>	<p>A. 次のいずれかの形で個体数の減少が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 最近10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、20%以上の減少があったと推定される。 今後10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、20%以上の減少があると予測される。 <p>B. 出現範囲あるいは生育地・生息地面積、成熟個体数等に、最近極度の減少がみられるか、今後継続的な減少が予想され、かつ生育地・生息地が以下に限定される場合。</p> <p>○生育地・生息地が過度に分断されているか、10ヶ所以下の地点(水系)に限定されている。</p> <p>C. 個体群の成熟個体数が10,000未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 10年間もしくは3世代のどちらか長い期間に10%以上の継続的な減少が推定される。 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ個体群が構造的に過度の分断を受けるか全ての個体が1つの亜個体群に含まれる状況にある。 <p>D. 成熟個体数が1,000未満であると推定される場合。</p> <p>E. 数量解析により、100年間における絶滅の可能性が10%以上と予測される場合。</p>
<p>準絶滅危惧 NT (Near Threatened) 沖縄県では存続基盤が脆弱な種</p> <p>現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。</p>	—
<p>情報不足 DD (Data Deficient) 沖縄県では評価するだけの情報が不足している種</p>	—
<p>絶滅のおそれのある地域個体群 LP (Threatened Local Population) 沖縄県で地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれの高いもの</p>	—

注) 種：動物では種および亜種、植物では種、亜種、変種を示す。

(8) 今後の課題

改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版は、沖縄県を研究の場として活動する多くの学識者や研究者の多大な協力のもと作成された。

今後の課題としては、改訂第2版に引きつづき、各分類群の特性に即した定量的な調査手法・解析手法の検討が課題として考えられる。また、情報不足とされた種については、今後も情報収集につとめ、情報不足とされた種以外の掲載種についても、その種を取り巻く自然環境・社会的環境の変化を勘案しつつ、継続的な生息・生育状況の把握が課題として挙げられる。上記の課題については、改訂委員会および編集委員会の場においてモニタリングサイトの設定によるより定量的な調査の検討の必要性をはじめ、継続的な調査研究の場を確保していくことの重要性も指摘された。また、得られた調査成果についてはGIS（地理情報システム）を活用した統一的なデータベース構築の必要性を指摘する意見もあった。

沖縄県のホームページ上にて公開されているレッドデータブックについても、改訂第2版以降に石垣島や慶良間諸島、沖縄島北部やんばる地域が国立公園化を達成したことをはじめ、平成29年2月には「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界遺産登録推薦書がユネスコへ提出されるなど、本県の自然環境保全の重要性についてはより一層の配慮が求められることから、調査研究への活用のしやすさだけでなく、国内外を問わず一般の利用者の活用のしやすさを考慮に入れた公開のありかたについても検討が必要と考えられる。

自然環境及び社会環境の変化による影響を的確にとられるため、また新たな生息・生育の情報や分子系統学をはじめとした最新の学術成果を反映する必要性から、本県のレッドデータブックは、今後とも継続的な見直しを行う必要があると考えられる。そのうえで、これまでのおよそ10年間ごとの発刊にとらわれず、必要に応じて、沖縄県のホームページ等を活用したレッドデータブックの部分改訂を行っていくことも検討の課題と考えられる。

本書が広く普及することで、絶滅のおそれのある野生生物の保全への理解を深めていただくとともに、関係省庁や地方公共団体、民間を含めた各種の事業、それらにともなう環境影響評価等にも活用されることで、本県の環境保全への配慮がより一層促進されることを期待するものである。

2. 選定方法

2. 1 はじめに

改訂・沖縄県版レッドデータブック 第3版の掲載種の選定については、沖縄県版レッドデータブック編集委員会および分科会で検討が行われた。

掲載種は、改訂第2版の沖縄県版レッドデータブックを基本として、対象とする分類群の検討対象種をあらかじめ抽出した上で、本改訂で行った調査の情報も踏まえ、最新の既存知見や専門家の知見を基に選定した。選定された掲載種は、絶滅、野生絶滅、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、絶滅のおそれのある地域個体群および情報不足の8つのカテゴリーに区分し、それぞれの種について現状での生息・生育状況等を取りまとめた。

本改訂にあたり、カテゴリー定義等の見直しは行わず、基本的には改訂第2版と同様の手法で選定を行った。

改訂・沖縄県版レッドデータブック第3版を作成するにあたっての基本方針は以下に示すとおりである。本改訂にあたり④を追加した。

- ① 環境省版レッドデータブック等における概念を踏まえつつ、沖縄県の地域性、独自性にも配慮する。
- ② 環境省版レッドデータブック等にあげられていない沖縄県独自の種もリストアップする。
- ③ 現在の文献・資料ではレッドデータブックに掲載してよいか判断がつかない種および今後詳細な調査を要する種については、情報不足種としてリストアップする。
- ④ 生息・生育状況に生じた変化や新たな研究等の知見に応じて、継続的に見直しを行う。

2. 2 評価対象範囲の設定

(1) 評価対象種の範囲

評価対象種は、脊椎動物は哺乳類から魚類までのすべての分類群を対象とした。無脊椎動物は甲殻類、昆虫類、クモ形類、多足類、貝類を対象とした。評価対象とした動物群は以下に示す10分類群である。

- ① 哺乳類
- ② 鳥類
- ③ 爬虫類
- ④ 両生類
- ⑤ 魚類
- ⑥ 甲殻類
- ⑦ 昆虫類
- ⑧ クモ形類
- ⑨ 多足類
- ⑩ 貝類

(2) 評価対象地域の範囲

評価対象地域は沖縄県内の全域とし、対象は陸産・淡水産（生活史の一部を陸水域で過ごす生物も含む）および沿岸域に生息・生育する生物も含めた。初版では魚類と貝類については海産のものを除いたが、改訂第2版以降は、本改訂を含め自然的環境・社会的環境の変化を勘案してどちらも含めることとした。

本改訂では、沿岸域を干潟環境及び関連する周辺の環境の範囲とし、新たに以下のとおり定義した。

- ① 潮間帯に形成される。
- ② 外海から隔離された河口域を含む内湾的環境に形成される。
- ③ 砂泥、岩礫、サンゴ礫など、流動性のある底質からなる。
- ④ 比較的平坦な地形である。
- ⑤ 干潟に隣接した塩性湿地やマングローブ湿地、海藻藻場である。
- ⑥ 海とのつながりがある汽水性の地下洞窟である。

2. 3 掲載種の選定手順

(1) レッドデータブック対象種のリストアップ

改訂第2版の沖縄県版レッドデータブック掲載種を中心とし、選定は基本的には以下の基準を満たす種とした。なお、対象種は本来県内に自然分布する種および亜種とし、外来種は除いた。

- ① 沖縄県内で生息・生育する種から分類学上、近縁種が無く極めて孤立した地位にある特異な種
- ② 沖縄県内のごく限られた地域にのみ生息している種
- ③ ごく限られた特殊な生息域にあり、生息環境の改変などによって消滅しやすい種
- ④ 過去から現在に至るまでの間に何らかの要因で生息状況が悪化している種

固有種・固有亜種、南限種、北限種の視点から選定した種も対象種に含めた。

鳥類では、過去2〜3回しか確認されていない迷鳥等は対象種から除いたが、毎年沖縄県内に飛来する渡り鳥については対象種に加えた。

(2) 分科会による掲載種の選定とカテゴリー判定

各分類群の分科会においては、現地調査を交えながら、各種の既存資料・文献（沖縄県における環境アセスメントや沖縄県が保有する調査報告書を含む）および生息・生育情報や知見に基づく検討を行い、リストアップした対象種から掲載種として選定すべき種および亜種の抽出を行った。掲載種の選定と並行して、絶滅、野生絶滅、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧および絶滅のおそれのある地域個体群のカテゴリーに区分した。また、資料・情報等が不足しており、現状および生態が不明な種については、情報不足としてリストアップした。

生息状況の地域差により、特定の島嶼や地域において絶滅の危険性がより高まっているなど特記すべき事項がある場合は、種の解説内の特記事項欄にその内容を具体的に示すこととした。

なお、検討にあたっては共通仕様の評価チェックシートを活用して行った。

(3) 沖縄県版レッドデータブック編集委員会

各分類群の分科会における掲載種の素案は、各分類群分科会の代表委員（編集委員を兼ねる）から構成された編集委員会で検討をおこない、そのうえで、各分科会が最終的に掲載種を決定した。

2. 4 動物編の作成にあたり

(1) 記載項目

種の解説には表2-2に示す記載項目および内容を記入した。記載項目および内容は改訂第2版を踏襲したが、特筆すべき地域差を表記する場合は、種の解説の特記事項欄にその内容を具体的に示すこととした。また、IUCN（国際自然保護連合：本部スイス）のレッドリストの評価も参考として付記した。なお、情報不足とされた種についてリストを掲載し、一部情報のあるものについては分布や情報不足とした理由などを掲載した。

(2) 本改訂でのおもな留意点

各分類群の巻頭に、改訂第2版からの作成上の変更点などの留意すべき事項を示した。

(3) 本改訂で明らかになったこと

各分類群の巻頭に、改訂第3版の作成で明らかとなった事項を示した。

(4) 種の解説の作成

種の解説は、各分科会の責任編集とした(分科会が指定した執筆協力者による執筆を含む)。

なお、改訂第2版の種の解説を当時の執筆者と異なる執筆者が一部を見直して今回作成した場合は、表2-1に示す基準にてらし執筆者名を適切に表記した。

表2-1 改訂第2版の記述を異なる執筆者が加筆・変更した場合の執筆者名表記の基準

区分	執筆者表記
・第2版解説の過半を変更した場合	・本改訂執筆者の次位に第2版執筆者を示したうえで、第2版執筆者にアスタリスク(*)を付ける。 (表記の仕方) 執筆者名:本改訂執筆者 ・ 第2版執筆者*
・生息/生育状況の追記など第2版解説の一部を変更した場合 ・過半数に満たないこのほか変更	・第2版執筆者にアスタリスク(*)を付け、本改訂の執筆者を次位に示したうえで(追補)を付記する。 (表記の仕方) 執筆者名:第2版執筆者* ・ 本改訂執筆者(追補)
・第2版解説に変更がない場合	・第2版執筆者にアスタリスク(*)を付けて示す。 (表記の仕方) 執筆者名:第2版執筆者*

(5) 写真の掲載の充実

本改訂では、動物編掲載種のおよそ半数の写真の掲載をめざし、各位の協力を得たうえで、絶滅危惧Ⅱ類以上のカテゴリーランクの種及び代表的な種、既存の図鑑類に図示がない種を中心に合計471種の写真に掲載した。

表 2-2 記載項目および記載の内容（動物編）

記載項目	記載内容
1 和名	和名を記載する
2 分類	目名、科名を記載する。
3 学名	学名を記載する。
4 方言名	可能な限り記載する。
5 カテゴリー	絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類（ⅠA類・ⅠB類）、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、絶滅のおそれのある地域個体群、情報不足）に分類する。
6 環境省カテゴリー	日本の絶滅のおそれのある野生生物のカテゴリーを記載する。なお、該当する種がない場合には「該当なし」と記載する。
7 形態	対象種の形態について、簡潔明瞭に記載する。
8 近似種との区別	近似種との同異について、その区別点を簡潔明瞭に記載する。
9 分布の概要	県内の分布状況について、その概要を記載する。諸島名、島嶼名を記載の基本とする。島は北から南へと配列する。固有の場合はその旨記載する。特定の地域(市町村名、地名など)を表記する場合は、密猟や盗掘等の被害を助長することがないように留意する。
10 近縁な種及び群との分布状況の比較	分布状況を比較すべき近縁の種がある場合は、対象種と近縁種との分布状況を記載する。
11 生態的特徴	対象種の生態について記載する。
12 生息地の条件	特記すべき生息地の条件について記述し、生息環境を比較すべき近縁な種がある場合、その近縁種の生息状況についても、可能な限り記載する。
13 個体数の動向	抽出した種の個体数経年変化等について可能な限り記載する。
14 現在の生息状況	特記すべき生息地状況について記述し、生息環境を比較すべき近縁な種がある場合、その近縁種の生息状況についても、可能な限り記載する。
15 学術的意義・評価	特記すべき対象種の学術的な意義と評価について、簡潔明瞭に記載する。
16 生存に対する脅威	生存に対する、既知の報告や想定される圧迫要因について記載する。
17 特記事項	<p>上記で記載できなかった内容について記載する。「文化財保護法」による特別天然記念物・国指定天然記念物、沖縄県指定天然記念物、市町村指定天然記念物や「絶滅のおそれのある野生生物動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種、市町村条例の保全種等に指定されていれば記載する（平成29年3月1日時点）。このほか、特筆すべき地域差がある場合は具体的に記載する。</p> <p>国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストの評価も併記する。同レッドリストは基本的に種を単位としてカテゴリーを評価し、すべての亜種が同じ評価となる。本県改訂では、このうち特定の亜種の現状を指して選定した種が多く含まれており留意が必要である。Date Assessed:2016-10-01を最新の評価とする。カテゴリー基準は2001 Categories & Criteria (version 3.1) に準じる（一部種を除く）。一部、1994 Categories & Criteria (version 2.3)によるLower Risk/near threatenedおよびLower Risk/least concernの各カテゴリーによる種は、それぞれNT、LCに置き換えて示したものを含む。</p>
18 原記載	可能な限り記載するが、割愛して差し支えない。
19 参考文献	原則として、著者名、年号、報文タイトル、書名、編集者、出版元、出版元住所、巻号頁の順に記載する。生息状況や保全等の重要な文献のみでもよい。
20 執筆者名	執筆者、加筆・追補者を区別して記載する（表2.1の基準による）。

3. 選定結果

3. 1 掲載種数

改訂第3版の選定状況を表3-1に示した。

本改訂において、沖縄県において絶滅のおそれがある種として選定された野生動物は合計991種となった。

分類群別の内訳は、貝類が419種で最も多く全体の約42%を占める。次いで甲殻類137種、魚類124種、昆虫類111種が多く、掲載種数が多い上位4分類群で合計791種、率にして約80%を占める状況である。

初版および改訂第2版の掲載種数は表3-2及び表3-3に示すとおりであり、初版(1996)では484種を、改訂第2版(2005)では837種を選定している。本改訂では、前回改訂時と比較して約2割にあたる154種が増えた。とくに魚類や甲殻類ではほぼ倍増しており、また、絶滅危惧I類(I A類とI B類を含む)および絶滅危惧II類の上位カテゴリーの選定種で増加が著しい。このなかには分類学的進展や評価を可能とする新たな知見の集積により増加した種も含まれていると考えられるが、沖縄県の野生動物の現状としてはより厳しい状況におかれているものと考えられる。

なお、本改訂においては、哺乳類のミヤココキクガシラコウモリ、鳥類のダイトウノスリ、貝類のリウキュウカワザンショウおよびキルンの計4種が新たに絶滅種に選定された。一方、初版で絶滅種に選定されたダイトウグイスは、奄美諸島や沖縄諸島で本亜種と考えられる現生個体群が確認されたことから選定種から除外し、第2版で絶滅種に選定された貝類のミヤコオカチグサは、わずかながら現生個体群が確認されたことからカテゴリーを絶滅危惧I類に変更した。

表3-1 カテゴリー別種数一覧(改訂第3版2017)

カテゴリー 分類群	絶滅 (EX)	野生 絶滅 (EW)	絶滅危惧I類		絶滅危惧 II類 (VU)	準絶滅 危惧 (NT)	絶滅のおそ れのある地 域個体群 (LP)	情報 不足 (DD)	合 計	
			I A類 (CR)	I B類 (EN)						
哺乳類	2	0	13	8	5	2	3	0	2	22
鳥類	5	0	21	8	13	30	29	0	5	90
爬虫類	0	0	8	2	6	10	14	2	3	37
両生類	0	0	5	0	5	2	3	0	0	10
魚類	1	0	69	49	20	14	10	0	30	124
甲殻類	0	0	21	7	14	29	68	0	19	137
昆虫類	0	0	23	13	10	29	28	15	16	111
クモ形類	0	0	6	4	2	11	7	1	8	33
多足類	0	0	0	0	0	0	5	1	2	8
貝類	3	0	85	—	—	152	150	1	28	419
合 計	11	0	91 251		75	279	317	20	113	991

※ 絶滅危惧I類はI A類とI B類の和を示す。また、貝類は、I A類とI B類に細分せずI類(CR+EN)として表示した。

※ 多足類は初版・第2版のムカデ・ヤスデ類に相当する。

表 3-2 (参考) カテゴリー別種数一覧 (改訂第 2 版 2005)

カテゴリー 分類群	絶滅 (EX)	野生 絶滅 (EW)	絶滅危惧 I 類		絶滅危惧 II 類 (VU)	準絶滅 危惧 (NT)	絶滅のおそ れのある地 域個体群 (LP)	情報 不足 (DD)	合 計	
			I A 類 (CR)	I B 類 (EN)						
哺乳類	1	0	12	9	3	4	3	0	3	23
鳥類	5	0	17	6	11	19	28	4	3	76
爬虫類	0	0	7	2	5	10	16	0	1	34
両生類	0	0	5	0	5	1	4	0	0	10
魚類	1	0	37	23	14	9	4	1	4	56
甲殻類	0	0	17	5	12	23	32	0	4	76
昆虫類	0	0	13	—	—	15	78	9	45	160
クモ形類	0	0	0	0	0	1	4	1	0	6
ムカデ・ヤスデ類	0	0	0	0	0	0	1	9	24	34
貝類	2	0	52	21	31	90	152	3	63	362
合 計	9	0		66 160	81	172	322	27	147	837

※ 絶滅危惧 I 類は I A 類と I B 類の和を示す。また、昆虫類は、I A 類と I B 類に細分せず I 類 (CR+EN) として表示した。

表 3-3 (参考) カテゴリー別種数一覧 (初版 1996)

カテゴリー 分類群	絶滅種	絶滅危惧種	危急種	希少種	地域個体群	未決定種	合 計
哺乳類	1	6	3	3	0	7	20
鳥類	5	10	14	38	0	5	72
爬虫類	0	1	4	11	3	8	27
両生類	0	0	4	3	1	0	8
汽水・淡水産魚類	0	2	6	3	0	27	38
甲殻類	0	3	8	46	1	0	58
昆虫類	0	5	9	81	7	114	216
クモ型類	0	0	0	4	1	0	5
ムカデ・ヤスデ類	0	0	0	6	4	10	20
陸・淡水産貝類	0	1	5	14	0	0	20
合 計	6	28	53	209	17	171	484

3. 2 掲載種リスト

レッドデータおきなわ 改訂第3版（動物編）平成29(2017)年3月

< 哺乳類 >

絶滅 (EX)	オキナワオオコウモリ ミヤココキクガシラコウモリ	<i>Pteropus loochoensis</i> <i>Rhinolophus pumilus miyakonis</i>
絶滅危惧 I A 類 (CR)	センカクモグラ ダイトウオオコウモリ ヤンバルホオヒゲコウモリ オキナワトゲネズミ セスジネズミ ケナガネズミ イリオモテヤマネコ ジュゴン	<i>Mogera uchidai</i> <i>Pteropus dasymallus daitoensis</i> <i>Myotis yanbarensis</i> <i>Tokudaia muenninki</i> <i>Apodemus agrarius</i> <i>Diplothrix legata</i> <i>Prionailurus bengalensis iriomotensis</i> <i>Dugong dugon</i>
絶滅危惧 I B 類 (EN)	オキナワコキクガシラコウモリ ヤエヤマコキクガシラコウモリ カグラコウモリ リュウキュウテングコウモリ リュウキュウユビナガコウモリ (コユビナガコウモリ)	<i>Rhinolophus pumilus pumilus</i> <i>Rhinolophus perditus</i> <i>Hipposideros turpis</i> <i>Murina ryukyuana</i> <i>Miniopterus fuscus</i>
絶滅危惧 II 類 (VU)	イエコウモリ (アブラコウモリ) リュウキュウイノシシ	<i>Pipistrellus abramus</i> <i>Sus scrofa riukiuanus</i>
準絶滅危惧 (NT)	ワタセジネズミ オリイオオコウモリ ヤエヤマオオコウモリ	<i>Crocidura watasei</i> <i>Pteropus dasymallus inopinatus</i> <i>Pteropus dasymallus yayeyamae</i>
情報不足 (DD)	ジャコウネズミ オキナワハツカネズミ	<i>Suncus murinus</i> <i>Mus caroli</i>

< 鳥類 >

絶滅 (EX)	リュウキュウカラスバト ダイトウノスリ ミヤコショウビン ダイトウヤマガラ ダイトウミソサザイ	<i>Columba joiyi</i> <i>Buteo buteo oshiroi</i> <i>Todiramphus miyakoensis</i> <i>Poecile varius orii</i> <i>Troglodytes troglodytes orii</i>
絶滅危惧 I A 類 (CR)	ヨナグニカラスバト コウノトリ オオヨシゴイ ヤンバルクイナ ヘラシギ カンムリワシ ダイトウコノハズク ノグチゲラ	<i>Columba janthina stejneri</i> <i>Ciconia boyciana</i> <i>Ixobrychus eurhythmus</i> <i>Gallirallus okinawae</i> <i>Eurynorhynchus pygmeus</i> <i>Spilornis cheela perplexus</i> <i>Otus elegans interpositus</i> <i>Sapheopipo noguchii</i>
絶滅危惧 I B 類 (EN)	オシドリ アカオネツタイチョウ キンバト アカアシカツオドリ サンカノゴイ クロツラヘラサギ オオクイナ アマミヤマシギ コシャクシギ リュウキュウツミ オリイコゲラ ホントウアカヒゲ リュウキュウキビタキ	<i>Aix galericulata</i> <i>Phaethon rubricauda rothschildi</i> <i>Chalcophaps indica yamashinai</i> <i>Sula sula rubripes</i> <i>Botaurus stellaris stellaris</i> <i>Platalea minor</i> <i>Rallina eurizonoides sepiaria</i> <i>Scolopax mira</i> <i>Numenius minutus</i> <i>Accipiter gularis iwasakii</i> <i>Dendrocopos kizuki orii</i> <i>Luscinia komadori namiyei</i> <i>Ficedula narcissina owstoni</i>

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ヒシクイ
ツクシガモ
シラオネツタイチョウ
カラスバト
アホウドリ
オオミズナギドリ
ミゾゴイ
ズグロミゾゴイ
ムラサキサギ
シロチドリ
セイタカシギ
オオソリハシシギ
ホウロクシギ
ツルシギ
アカアシシギ
タカブシギ
タマシギ
ミフウズラ
ツバメチドリ
ズグロカモメ
オオアジサシ
コアジサシ
ベニアジサシ
エリグロアジサシ
サシバ
リュウキュウオオコノハズク
ハヤブサ
サンショウクイ
オリヤマガラ
アカヒゲ

準絶滅危惧 (NT)

オオヒシクイ
マガン
カイツブリ
ダイトウカイツブリ
アナドリ
アオツラカツオドリ
カツオドリ
ヨシゴイ
リュウキュウヨシゴイ
チュウサギ
カラシラサギ
リュウキュウヒクイナ
ツルクイナ
ヒメアマツバメ
オオジシギ
ハマシギ
リュウキュウクロアジサシ
マミジロアジサシ
セグロアジサシ
ミサゴ
リュウキュウコノハズク
リュウキュウアオバズク
カワセミ
リュウキュウコゲラ
アマミヤマガラ
イシガキシジュウカラ
シロガシラ
ダイトウヒヨドリ
ダイトウメジロ

情報不足 (DD)

リュウキュウガモ
ヘラサギ
ツミ
コトラツグミ
ウスアカヒゲ

Anser fabalis serrirostris
Tadorna tadorna
Phaethon lepturus dorotheae
Columba janthina janthina
Phoebastria albatrus
Calonectris leucomelas
Gorsachius goesagi
Gorsachius melanolophus
Ardea purpurea manilensis
Charadrius alexandrinus
Himantopus himantopus himantopus
Limosa lapponica
Numenius madagascariensis
Tringa erythropus
Tringa totanus ussuriensis
Tringa glareola
Rostratula benghalensis benghalensis
Turnix suscitator
Glareola maldivarum
Larus saundersi
Sterna bergii cristata
Sterna albifrons sinensis
Sterna dougallii bangsi
Sterna sumatrana
Butastur indicus
Otus lempiji pryeri
Falco peregrinus japonensis
Pericrocotus divaricatus divaricatus
Poecile varius olivaceus
Luscinia komadori komadori

Anser fabalis middendorffii
Anser albifrons albifrons
Tachybaptus ruficollis poggei
Tachybaptus ruficollis kunikyonis
Bulweria bulwerii
Sula dactylatra personata
Sula leucogaster plotus
Ixobrychus sinensis sinensis
Ixobrychus cinnamomeus
Egretta intermedia intermedia
Egretta eulophotes
Porzana fusca phaeopyga
Gallinula cinerea
Apus nipalensis kuntzi
Gallinago hardwickii
Calidris alpina
Anous stolidus pullus
Sterna anaethetus
Sterna fuscata nubilosa
Pandion haliaetus haliaetus
Otus elegans elegans
Ninox scutulata togo
Alcedo atthis bengalensis
Dendrocopos kizuki nigrescens
Poecile varius amamii
Parus minor nigriloris
Pycnonotus sinensis sinensis
Hypsipetes amaurotis borodionis
Zosterops japonicus daitoensis

Dendrocygna javanica
Platalea leucorodia leucorodia
Accipiter gularis gularis
Zoothera dauma iriomotensis
Luscinia komadori subrufus

<掲載種リスト>

< 爬虫類 >

絶滅危惧ⅠA類 (CR)

イヘヤトカゲモドキ
キクザトサワヘビ

Goniurosaurus kuroiwae toyamai
Opisthotropis kikuzatoi

絶滅危惧ⅠB類 (EN)

タイマイ
リュウキュウヤマガメ
マダラトカゲモドキ
クメトカゲモドキ
ミヤコカナヘビ
ミヤコヒメヘビ

Eretmochelys imbricata
Geoemyda japonica
Goniurosaurus kuroiwae orientalis
Goniurosaurus kuroiwae yamashinae
Takydromus toyamai
Calamaria pfefferi

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アカウミガメ
ヤエヤマセマルハコガメ
クロイワトカゲモドキ
オキナワキノボリトカゲ
バーバートカゲ
オキナワトカゲ
ミヤコトカゲ
ヨナグニシュウダ
ミヤコヒバア
ミヤラヒメヘビ

Caretta caretta
Cuora flavomarginata evelynae
Goniurosaurus kuroiwae kuroiwae
Japalura polygonata polygonata
Plestiodon barbouri
Plestiodon marginatus
Emoia atrocostata atrocostata
Elaphe carinata yonaguniensis
Hebius conelarus
Calamaria pavimentata miyarai

準絶滅危惧 (NT)

アオウミガメ
ヤエヤマイシガメ
サキシマキノボリトカゲ
ヨナグニキノボリトカゲ
キシノウエトカゲ
イワサキセダカヘビ
アマミタカチホヘビ
ヤエヤマタカチホヘビ
サキシマアオヘビ
サキシマバイカダ
ハイ
イワサキワモンベニヘビ
エラブウミヘビ
ヒロオウミヘビ

Chelonia mydas
Mauremys mutica kami
Japalura polygonata ishigakiensis
Japalura polygonata donan
Plestiodon kishinouyei
Pareas iwasakii
Achalinus werneri
Achalinus formosanus chigirai
Cyclophiops herminae
Lycodon ruhstrati multifasciatus
Sinomicrurus japonicus boettgeri
Sinomicrurus maccllellandi iwasakii
Laticauda semifasciata
Laticauda laticaudata

絶滅のおそれのある
地域個体群 (LP)

大東諸島のオガサワラヤモリ
小浜島・黒島のサキシマカナヘビ

Lepidodactylus lugubris
Takydromus dorsalis

情報不足 (DD)

タシロヤモリ
アオスジトカゲ
シュウダ

Hemidactylus bowringii
Plestiodon elegans
Elaphe carinata carinata

< 両生類 >

絶滅危惧ⅠB類 (EN)

オキナワイシカワガエル
コガタハナサキガエル
ハナサキガエル
ホルストガエル
ナミエガエル

Odorrana ishikawae
Odorrana utsunomiyaorum
Odorrana narina
Babina holsti
Limnonectes namiyei

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

イボイモリ
リュウキュウアカガエル

Echinotriton andersoni
Rana ulma

準絶滅危惧 (NT)

シリケンイモリ
ハロウエルアマガエル
オオハナサキガエル

Cynops ensicauda
Hyla hallowellii
Odorrana supranarina

〈 魚 類 〉

絶滅 (EX)

絶滅危惧 I A 類 (CR)

リュウキュウアユ

コゲウツボ
ナミダカワウツボ
ゼブラアナゴ
ドロクイ
フナ属の1種
ドジョウ
タウナギ
チンヨウジウオ
ホシイッセンヨウジ
タニヨウジ
ヒメテングヨウジ
カワボラ
ナガレフウライボラ
ミナミメダカ
ヒゲソリオコゼ
アゴヒゲオコゼ
タマカイ
オオアオノメアラ
カガミテンジクダイ
ウラウチフエダイ
テッポウウオ
ヨコシマイサキ
ニセシマイサキ
シミズシマイサキ
トゲナガユゴイ
カンムリブダイ
ウラウチヘビギンポ
カワギンポ
ヒルギギンポ
クシヒゲヌメリ
ツバサハゼ
トカゲハゼ
チワラスボ属の1種1
チワラスボ属の1種2
ハヤセボウズハゼ
コンテリボウズハゼ
ヒスイボウズハゼ
シマサルハゼ
アオバラヨシノボリ
ヒメトサカハゼ
クロトサカハゼ
アゴヒゲハゼ
コンジキハゼ
ウラウチイソハゼ
シマエソハゼ
エソハゼ
コマチハゼ
ヒメサツキハゼ
タイワンキンギョ

絶滅危惧 I B 類 (EN)

ニホンウナギ
アミメカワヨウジ
オキナワキチヌ
アトクギス
メガネモチノウオ
ゴシキタメトモハゼ
オウギハゼ
トビハゼ
アサガラハゼ
チワラスボ属の1種3
カエルハゼ
ミナミアシシロハゼ

Plecoglossus altivelis ryukyuensis

Uropterygius concolor
Echidna rhodochilus
Heteroconger polyzona
Nematalosa japonica
Carassius sp.
Misgurnus anguillicaudatus
Monopterus sp.
Bulbonaricus brauni
Microphis argulus
Microphis retzii
Microphis jagorii
Cestraeus plicatilis
Crenimugil heterocheilos
Oryzias latipes
Tetraroge nigra
Tetraroge barbata
Epinephelus lanceolatus
Plectropomus areolatus
Yarica hyalosoma
Lutjanus goldiei
Toxotes jaculatrix
Mesopristes cancellatus
Mesopristes argenteus
Mesopristes iravi
Kuhlia munda
Bolbometopon muricatum
Enneapterygius cheni
Omobranchus ferox
Omox biporos
Eleutherochir mccaddeni
Rhyacichthys aspro
Scartelaos histophorus
Taenioides sp. 1
Taenioides sp. 2
Stiphodon imperorientis
Stiphodon atropurpureus
Stiphodon alcedo
Oxyurichthys sp.
Rhinogobius sp. BB
Cristatogobius aurimaculatus
Cristatogobius nonatoae
Glossogobius bicirrhosus
Glossogobius aureus
Eviota ocellifer
Schismatogobius ampluvinculus
Schismatogobius roxasi
Parioglossus taeniatus
Parioglossus interruptus
Macropodus opercularis

Anguilla japonica
Hippichthys heptagonus
Acanthopagrus chinshira
Sillaginops macrolepis
Cheilinus undulatus
Giuris sp. 1
Bunaka gyrinoides
Periophthalmus modestus
Caragobius urolepis
Taenioides sp. 3
Smilosicyopus leprurus
Acanthogobius insularis

<掲載種リスト>

	マサゴハゼ ホホグロハゼ キバラヨシノポリ ミスジハゼ ニセシラヌイハゼ キララハゼ コビトハゼ クサフグ	<i>Pseudogobius masago</i> <i>Mugilogobius cavifrons</i> <i>Rhinogobius</i> sp. YB <i>Callogobius</i> sp. <i>Silhouettea</i> sp. <i>Acentrogobius viridipunctatus</i> <i>Parioglossus rainfordi</i> <i>Takifugu niphobles</i>
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	タナゴモドキ タメトモハゼ ヤエヤマノコギリハゼ ヒゲワラスボ ヨロイボウズハゼ アカボウズハゼ ミナミヒメミズハゼ カブキハゼ マングローブゴマハゼ ギンボハゼ トサカハゼ ワカケサラサハゼ カワクモハゼ ボルネオハゼ	<i>Hypseleotris cyprinoides</i> <i>Giuris</i> sp. 2 <i>Butis amboinensis</i> <i>Trypauchenopsis intermedia</i> <i>Lentipes armatus</i> <i>Sicyopus zosterophorus</i> <i>Luciogobius ryukyuensis</i> <i>Eugnathogobius mindora</i> <i>Pandaka lidwilli</i> <i>Parkraemia saltator</i> <i>Cristatogobius lophius</i> <i>Amblygobius linki</i> <i>Bathygobius</i> sp. <i>Parioglossus palustris</i>
準絶滅危惧 (NT)	オオメジロザメ コモチサヨリ ナンヨウチヌ ジャノメハゼ ホシマダラハゼ ミナミハゼ ヒラヨシノポリ ニセツムギハゼ ホホグロスジハゼ フタスジノポリハゼ	<i>Carcharhinus leucas</i> <i>Zenarchopterus dunckeri</i> <i>Acanthopagrus pacificus</i> <i>Bostrychus sinensis</i> <i>Ophiocara porocephala</i> <i>Awaous ocellaris</i> <i>Rhinogobius</i> sp. DL <i>Acentrogobius audax</i> <i>Acentrogobius suluensis</i> <i>Amoya moloanus</i>
情報不足 (DD)	ニューギニアウナギ ハクテンウミヘビ アンピンボラ モンナシボラ ネッタイソイワシ ミナミギンソイワシ ナンヨウタカサゴイシモチ ハナダカタカサゴイシモチ ワキイシモチ ヒルギヌメリテンジクダイ ダイダイコシヨウダイ ゴマクモギンボ ナリタイトヒキヌメリ エリトゲハゼ ヒノコロモボウズハゼ トラフボウズハゼ ニライカナイボウズハゼ ドウケハゼ ヒモハゼ属の1種 コクチスナゴハゼ ムジナハゼ フタホシハゼ タスキヒナハゼ スダレウロハゼ フタゴハゼ ホクロハゼ クマノコハゼ ナミノコハゼ トンガスナハゼ マイコハゼ	<i>Anguilla bicolor pacifica</i> <i>Lamnostoma polyophthalmum</i> <i>Chelon subviridis</i> <i>Moolgarda engeli</i> <i>Atherinomorus duodecimalis</i> <i>Hypoatherina temminckii</i> <i>Ambassis interrupta</i> <i>Ambassis macracanthus</i> <i>Fibramia lateralis</i> <i>Pseudamia amblyuroptera</i> <i>Plectorhinchus albovittatus</i> <i>Omobranchus elongatus</i> <i>Pseudocalliurichthys ikedai</i> <i>Belobranchus belobranchus</i> <i>Sicyopus auxilimentus</i> <i>Stiphodon multisquamus</i> <i>Stiphodon niraikanaiensis</i> <i>Stenogobius ophthalmoporus</i> <i>Eutaeniichthys</i> sp. <i>Pseudogobius gastrospilos</i> <i>Mugilogobius mertoni</i> <i>Mugilogobius fuscus</i> <i>Redigobius balteatus</i> <i>Glossogobius circumspectus</i> <i>Glossogobius</i> sp. <i>Acentrogobius caninus</i> <i>Dotsugobius bleekeri</i> <i>Gobitrichinotus radiocularis</i> <i>Kraemia tongaensis</i> <i>Parioglossus lineatus</i>

〈 甲 殻 類 〉

絶滅危惧ⅠA類 (CR)

ダイトウコオイエビ (新称)
カクレサワガニ
トカシキオオサワガニ
ミヤコサワガニ
センカクサワガニ
ヒメユリサワガニ
シオマネキ

Halosbaena daitoensis
Amamiku occulta
Geothelphusa levicervix
Geothelphusa miyakoensis
Geothelphusa shokitai
Geothelphusa tenuimanus
Tabuca arcuata

絶滅危惧ⅠB類 (EN)

イシガキヌマエビ
ウリガーテナガエビ
イボテカニダマシ
ウチノミカニダマシ
トカシキミナミサワガニ
ケラマサワガニ
オキナワオオサワガニ
イヘヤオオサワガニ
クメジマオオサワガニ
ヤエヤマヤマガニ
ドウクツベンケイガニ
カスリベンケイガニ
ドウクツモクズガニ
イリオモテヨコナガピンノ

Neocaridina ishigakiensis
Macrobrachium miyakoense
Novorostrum decorocrus
Polyonyx utinomii
Candidiopotamon tokashikense
Geothelphusa amagui
Geothelphusa grandiovata
Geothelphusa iheya
Geothelphusa kumejima
Ryukyum yaeyamense
Karstarma boholano
Lithoselatum pulchrum
Orcovita miruku
Tetrias sp.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ドウクツヌマエビ
チカヌマエビ
イリオモテヌマエビ
ヒラアシテナガエビ
マガタマテナガエビ
カスリテナガエビ
ショキタテナガエビ
ヒトハカニダマシ
ヤシガニ
サキシマオカヤドカリ
キカイホンヤドカリ
イリオモテマメコブシガニ
クメジマミナミサワガニ
オキナワミナミサワガニ
ムラサキサワガニ
カッシュクサワガニ
ミネイサワガニ
リュウキュウアカテガニ
マルベンケイガニ
シロツメアシハラガニモドキ
ギザテアシハラガニ
アダンベンケイガニ
シロテアシハラガニモドキ
ロツカクイソガニ
ダルマガニ
アリアケモドキ
チゴガニ
タイワンヒメオサガニ
ナカグスクオサガニ

Antecaridina lauensis
Halocaridinides trigonophthalma
Neocaridina iriomotensis
Macrobrachium latidactylus
Macrobrachium lepidactyloides
Macrobrachium sp.
Macrobrachium shokitai
Petrolisthes unilobatus
Birgus latro
Coenobita perlatus
Pagurus angustus
Philyra iriomotensis
Candidiopotamon kumejimense
Candidiopotamon okinawense
Geothelphusa marginata marginata
Geothelphusa marginata fulva
Geothelphusa minei
Chiromantes ryukyuanum
Labuanium scandens
Neosarmatium rotundifrons
Sarmatium germaini
Scandarma lintou
Tiomanium indicum
Otognathon uru
Pyxidognathus granulatus
Deiratonotus cristatus
Ilyoplax pusilla
Macrophthalmus (Paramareotis) boteltobagoe
Macrophthalmus (Paramareotis) quadratus

準絶滅危惧 (NT)

シオカワヨコエビ
ミナミオニヌマエビ
ナガツノヌマエビ
サキシマヌマエビ
マングローブヌマエビ
アシナガヌマエビ
スベスベテナガエビ
ツブテナガエビ
テッポウエビ
オハグロテッポウエビ
キノボリエビ

Paracalliope dichotomus
Atyoida pilipes
Caridina gracilirostris
Caridina prashadi
Caridina propinqua
Caridina rubella
Macrobrachium equidens
Macrobrachium gracilirostre
Alpheus cf. *brevicristatus*
Metabetaeus minutus
Merguia oligodon

オトヒメスナモグリ
 トゲオスナモグリ
 イリオモテアナジャコ (新称)
 ミヤケアナジャコ (新称)
 ナンヨウトゲアナジャコ
 トゲユビアナジャコ (新称)
 ドロイワカニダマシ
 シロサンゴヤドカリ
 ヒルギノボリヨコバサミ
 ワカクサヨコバサミ
 マーグイヨコバサミ
 マルテツノヤドカリ
 リュウキュウカクエンコウガニ
 マンガルマメコブシガニ
 アマミマメコブシガニ
 ヤエヤマヤワラガニ
 ツノナシイボガザミ
 アカテノコギリガザミ
 アラモトサワガニ
 サカモトサワガニ
 ヘリトリオカガニ
 ヒメオカガニ
 ムラサキオカガニ
 アカカクレイワガニ
 マルガオベンケイガニ
 ハマベンケイガニ
 イワトビベンケイガニ
 オオアシハラガニモドキ
 ヒナアシハラモドキ
 ヨコスジベンケイガニ
 ツメナガベンケイガニ
 ミズギワベンケイガニ
 ミゾテアシハラガニ
 アシナガベンケイガニ
 タイワンベンケイガニ
 スマトライワベンケイガニ
 アシナガアカイソガニ
 マメイソガニ
 ケフサアシハラガニ
 ナダケフサアシハラガニ
 アゴヒロカワガニ
 ハチジョウヒライソモドキ
 コウビロヒライソモドキ (新称)
 ヨツハヒライソモドキ
 トリウミアカイソモドキ
 レンゲガニ (新称)
 ニセモクズガニ
 カワスナガニ
 コウナガカワスナガニ
 ハサミカクレガニ
 ヨウナシカワスナガニ
 ミナミムツハアリアケガニ
 ホルトハウスオサガニ
 メナガオサガニ
 リュウキュウシオマネキ
 シモフリシオマネキ
 カワラピンノ

情報不足 (DD)

メナガオサガニハサミエボシ
 オオバヌマエビ (新称)
 ガマヌマエビ (新称)
 クラヤミヌマエビ (仮称)
 ミヤコヌマエビ (仮称)
 チュラテナガエビ (仮称)
 ハシボソテッポウエビ
 リュウキュウユムシテッポウエビ (新称)
 アナモリノコギリテッポウエビ (新称)

Calliuxina sakaii
Cheramus spinicauda
Upogebia iriomotensis
Upogebia miyakei
Upogebia snelliusi
Upogebia spinidactylus
Petrolisthes bifidus
Calcinus seurati
Clibanarius ambonensis
Clibanarius demani
Clibanarius merguensis
Diogenes avarus
Notonyx kumi
Philyra nishihirai
Philyra taekoeae
Neorhynchoplax yaeyamaensis
Xiphonectes brockii
Scylla olivacea
Geothelphusa aramotoi
Geothelphusa sakamotoana
Discoplax rotunda
Epigrapsus notatus
Gecarcoidea lalandii
Geograpsus stormi
Chiromantes leptomerus
Metasesarma aubryi
Metasesarma obesum
Neosarmatium fourmanoiri
Neosarmatium laeve
Parasesarma dumacense
Parasesarma lepidum
Parasesarma liho
Sarmatium striaticarpus
Sesarmoides kraussi
Sesarmops impressus
Stelgistra stormi
Cyclograpsus longipes
Gopkittisak angustum
Parahelice daviei
Parahelice pilimana
Ptychognathus altimanus
Ptychognathus hachijyoensis
Ptychognathus insolitus
Ptychognathus takahashii
Sestrostoma toriumii
Scutumara enodis
Utica gracilipes
Deiratonotus japonicus
Moguai elongatum
Mortensenella forceps
Paramoguai pyriforme
Takedellus ambonensis
Macrophthalmus (Paramareotis) holthuisi
Macrophthalmus (Macrophthalmus) serenei
Tubuca coarctata
Austruca triangularis
Nepinnotheres cardii

Octolasmis unguisiformis
Caridina macrodentata
Caridina okinawa
Caridina sp.
Caridina sp.
Macrobrachium sp.
Alpheus dolichodactylus
Alpheus echiurophilus
Salmoneus brucei

イバラアナジャコ (新称)
 サンゴカニダマシ
 ヤドリムツアシガニ
 イルンティムツアシガニ
 オオウラムツアシガニ
 ヘコミベンケイガニ
 ニンジャベンケイガニ
 ヒメアカイソモドキ
 タイワンオオヒライソガニ
 ヨミノオサガニ

Upogebia saigusai
Enosteoides melissa
Hexapinus simplex
Mariaplax narusei
Mariaplax ourabay
Bresedium brevipes
Labuanium trapezoideum
Sestrostoma depressum
Varuna yui
Euplax leptophthalmus

〈 昆 虫 類 〉

絶滅危惧 I A 類 (CR)

イシガキニイニイ
 タイコウチ
 タイワンコオイムシ
 タガメ
 タイワンタガメ
 ツブゲンゴロウ
 マダラゲンゴロウ
 フチトリゲンゴロウ
 ガムシ
 ヨナグニマルバネクワガタ
 ヒサマツサイカブト
 ダイトウスジヒメカタゾウムシ
 タイワンツバメシジミ名義タイプ亜種

Platypleura albivannata
Laccotrephes japonensis
Diplonychus rusticus
Kirkaldyia deyrolli
Lethocerus indicus
Laccophilus difficilis
Rhantaticus congestus
Cybister limbatus
Hydrophilus acuminatus
Neolucanus insulicola donan
Oryctes hisamatui
Torishimazo daitoensis
Everes lacturnus lacturnus

絶滅危惧 I B 類 (EN)

アオナガイトトンボ
 トビイロヤンマ
 タイワンタイコウチ
 エサキタイコウチ
 コブイトアメンボ
 リュウキュウヒメミズスマシ
 ヤマトホソガムシ
 マルヒラタガムシ
 ヤンバルテナゴコガネ
 イリオモテボタル

Pseudagrion microcephalum
Anaciaeschna jaspidae
Laccotrephes grossus
Laccotrephes maculatus
Hydrometra annamana
Gyrinus ryukyuensis
Hydrochus japonicus
Enochrus subsignatus
Cheirotonus jambar
Rhagophthalmus ohbai

絶滅危惧 II 類 (VU)

カラスヤンマ慶良間亜種 (アサトカラスヤンマ)
 コフキトンボ
 シオカラトンボ
 ハマコオロギ (リュウキュウハマコオロギ)
 ホラアナゴキブリ先島諸島亜種 (ミヤコホラアナゴキブリ)
 カマドウマ栗島島亜種
 タラマハヤシウマ
 アケボノアメイロウマ
 ウスイロキマダラウマ
 オキナワキリギリス
 ツダナナフシ
 ダイトウヒメハルゼミ
 マダラアシミズカマキリ
 ツヤセスジアメンボ
 トゲアシアメンボ
 ヒメフチトリゲンゴロウ
 オキナワスジゲンゴロウ
 ニセコケシゲンゴロウ
 コウベツブゲンゴロウ
 ナカジマツブゲンゴロウ
 ツマキレオオミズスマシ
 タイワンオオミズスマシ
 サトミヒラタガムシ
 コガタガムシ
 オキナワマルチビガムシ
 ダイトウヒラタクワガタ
 オキナワマルバネクワガタ

Chlorogomphus brunneus keramensis
Deielia phaon
Orthetrum albistylum speciosum
Taiwanemobius ryukyuensis
Nocticola uenoi miyakoensis
Atachycines apicalis nabbieae
Diestrammena taramensis
Neotachycines elegantipes
Neotachycines pallidus
Gampsocleis ryukyuensis
Megacrania tsudai
Euterpnosia chibensis daitoensis
Ranatra longipes
Limnogonus nitidus
Limnometra femorata
Cybister rugosus
Hydaticus vittatus
Hyphydrus orientalis
Laccophilus kobensis
Laccophilus nakajimai
Dineutus australis
Dineutus mellyi
Enochrus satomii
Hydrophilus bilineatus cashimirensis
Pelthydrus okinawanus
Dorcus titanus daitoensis
Neolucanus okinawanus

<掲載種リスト>

	クメジマカブトムシ	<i>Trypoxylus dichotomus inachina</i>
	クメジマボタル	<i>Luciola owadai</i>
準絶滅危惧 (NT)	サキシマヤマトンボ	<i>Macromidia ishidai</i>
	ウスバカマキリ	<i>Mantis religiosa sinica</i>
	コバネササキリ	<i>Conocephalus japonicus</i>
	ウスモンナギサスズ	<i>Caconemobius takarai</i>
	ヨナグニヒシバツタ	<i>Hyboella aberrans</i>
	クロイワゼミ	<i>Muda kuroiwae</i>
	ヒメミズカマキリ	<i>Ranatra unicolor</i>
	タイワンマツモムシ	<i>Enithares sinica</i>
	オキナワマツモムシ	<i>Notonecta montandoni</i>
	サンゴアメンボ	<i>Hermatobates schuhi</i>
	サンゴミズギワカメムシ	<i>Salduncula decempunctata</i>
	メダカダルマカメムシ	<i>Astroscoptometa gryllocephalus</i>
	タカラサシガメ	<i>Elongicoris takarai</i>
	ミヤモトサシガメ	<i>Stachytropha miyamotoi</i>
	イワサキヘリカメムシ	<i>Dasynus biguttatus</i>
	フチベニヘリカメムシ	<i>Leptocoris rufomarginatus</i>
	ホソツマジロカメムシ	<i>Menida schultheissi</i>
	アマミヘビトンボ	<i>Protohermes immaculatus</i>
	コウトウコガシラミズムシ	<i>Haliphus kotoshonis</i>
	トビイロゲンゴロウ	<i>Cybister sugillatus</i>
	オオマルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus bonvouloiri</i>
	シャープツブゲンゴロウ	<i>Laccophilus sharpi</i>
	ヤエヤママルバネクワガタ	<i>Neolucanus insulicola insulicola</i>
	オキナワカブトムシ	<i>Allomyrina dichotoma takarai</i>
	ノブオオアオコメツキ	<i>Campsosternus nobuoi</i>
	ノブオフトカミキリ	<i>Pebblephaeus nobuoi</i>
	タイワンハナダカバチ	<i>Bembix formosana</i>
	ヨナグニサン	<i>Attacus atlas</i>
絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	リュウキュウリモントンボ	<i>Coelliccia ryukyuensis ryukyuensis</i>
	<対象地域：伊平屋島、慶良間諸島>	
	チビサナエ沖縄諸島亜種 (オキナワオジロサナエ)	<i>Stylogomphus ryukyuanus asatoi</i>
	<対象地域：慶良間諸島>	
	タイワンオジロサナエ八重山亜種 (ワタナベオジロサナエ)	<i>Stylogomphus shirozui watanabei</i>
	<対象地域：石垣島>	
	ホソミシオカラトンボ	<i>Orthetrum luzonicum</i>
	<対象地域：宮古島>	
	コフキオオメトンボ	<i>Zyxomma obtusum</i>
	<対象地域：南・北大東島>	
	マダラゴキブリ	<i>Rhabdoblatta guttigera</i>
	<対象地域：座間味島、阿嘉島>	
	セグロイナゴ	<i>Shirakiacris shirakii</i>
	<対象地域：沖縄島>	
	ツماغロゼミ	<i>Vagitanus terminalis</i>
	<対象地域：宮古島>	
	アシプトカタビロアメンボ	<i>Rhagovelia esakii</i>
	<対象地域：宮古島>	
	シロヘリハンミョウ琉球亜種 (オキナワシロヘリハンミョウ)	<i>Callytron yuasai okinawense</i>
	<対象地域：沖縄島>	
	ダルマガムシ属の一種	<i>Hydraena</i> sp.
	<対象地域：渡名喜島、座間味島>	
	タマガムシ	<i>Amphiops mater</i>
	<対象地域：沖縄諸島>	
	コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>
	<対象地域：八重山諸島>	
	ウスバカミキリ	<i>Megopsis sinica sinica</i>
	<対象地域：沖縄島>	
	ベニボシカミキリ	<i>Rosalia lesnei</i>
	<対象地域：石垣島>	
情報不足 (DD)	ミヤコモリゴキブリ	<i>Symploce miyakoensis</i>
	ヤサガタコカマキリ	<i>Statilia apicalis</i>
	モザイクコマダラウマ	<i>Neotachycines moxaic</i>

ニトベノミバツタ
 エゾカタビロオサムシ
 チャイロホソハナムグリ
 オオヨツバコガネ
 オオテントウ
 ヤエヤマクロスジホソハナムキリ
 オキナワクビジロカミキリ
 オキナワセンノキカミキリ
 オキナワサビカミキリ
 シロスジトゲバカミキリ
 ダイトウサルハムシ
 ゴマダラオオヒゲナガゾウムシ
 ヨナクニウオレスブユ

Xya nitobae
Campalita chinense
Callinomes ishikawai
Parastasia oberthueri ishigakiana
Synonycha grandis
Parastrangalis ishigakiensis
Xylariopsis iriei
Acalolepta kuniyoshii
Diboma costata
Rondibilis femorata
Basilepta borodinensis
Peribathys okinawanus
Simulium (Wallacellum) yonakuniense

<クモ形類>

絶滅危惧 I A 類 (CR)

オキナワホラアナヤチグモ
 ヤマトウシオグモ
 アワセイソタナグモ
 ダイトウヤイトムシ

Coelotes troglocaecus
Desis japonica
Paratheuma awasensis
Apozomus daitoensis

絶滅危惧 I B 類 (EN)

ミヤコジマトタテグモ
 ダイトウマルガタワカバグモ

Latouchia japonica
Loxobates daitoensis

絶滅危惧 II 類 (VU)

クンジャンキムラグモ
 ヤンバルキムラグモ

Heptahtela helios
Heptathela yanbaruensis

オキナワキムラグモ属(イヘヤキムラグモ、イシガキキムラグモ、オキナワキムラグモ、クメジマキムラグモ)
 下記4種(*)を選定

- (*) イヘヤキムラグモ
- (*) イシガキキムラグモ
- (*) オキナワキムラグモ
- (*) クメジマキムラグモ

Ryuthela iheyana
Ryuthela ishigakiensis
Ryuthela nishihirai
Ryuthela sasaki
Latouchia hyla
Latouchia parameleomene
Latouchia swinhoei
Sinopesa kumensis
Parabeloniscus shimojanai

ヤエヤマトタテグモ
 シマトタテグモ
 オキナワトタテグモ
 クメジマイボブトグモ
 クメコシビロザトウムシ

準絶滅危惧 (NT)

オオクロケブカジョウゴグモ
 キノボリトタテグモ
 リュウキュウカヤシマガモ
 オキナワマシラグモ
 ウデナガマシラグモ
 オキナワホラヒメグモ
 オヒキコシビロザトウムシ

Macrothele gigas
Conothele fragaria
Tricalamus ryukyuensis
Falcileptoneta okinawaensis
Masirana longipalpis
Nesticella okinawaensis
Parabeloniscus caudatus

絶滅のおそれのある
 地域個体群 (LP)

アマミサソリモドキ
 <対象地域：久米島、沖縄島、伊是名島>

Typopeltis stimpsonii

情報不足 (DD)

ヤンバルユウレイグモ
 コケオニグモ
 オキナワナガイボグモ
 ヤエヤマナガイボグモ
 オオハシリグモ
 イシガキアオグロハシリグモ
 ササキハシリグモ
 カノウハエトリ

Belisana yanbaruensis
Araneus seminiger
Hersilia okinawaensis
Hersilia yaeyamaensis
Dolomedes orion
Dolomedes yawatai
Dolomedes zatsun
Onomastus kanoi

<多足類>

準絶滅危惧 (NT)

ヨナグニアマビコヤスデ

Riukiaria mundyi

<掲載種リスト>

	コバアマビコヤスデ ポコックヤエタケヤスデ ミイツヤスデ ホラオビヤスデ	<i>Riukiaria spirallipes</i> <i>Yaetakaria neptuna</i> <i>Riukiupeltis jamashinai</i> <i>Epanerchodus subterraneus</i>
絶滅のおそれのある 地域個体群 (LP)	ヤエヤママルヤスデ 〈対象地域：石垣島、小浜島〉	<i>Spirobolus</i> sp.
情報不足 (DD)	カツレンフトケヤスデ (新称) タメトモヤスデ	<i>Tokyosoma flexuosum</i> <i>Eutrichodesmus nodulosus</i>
< 貝 類 >		
絶滅 (EX)	リュウキュウカワザンショウ トクノシマケハダシワクチマイマイ キルン	<i>Assimineia</i> sp. <i>Moellendorffia (Trichelix) tokunoensis</i> <i>Meretrix</i> sp. A
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	タイワンキサゴ ハスノハユキズメ (新称) マルタニシ オキナワムシオイ ヒラセアツブタガイ ゴマガイ属の一種 アマミカワニナ ムチカワニナ (タケノコカワニナ) カリントウカワニナ カトウラブシキシタダミ ガタチンナン ナガヤマヤマトボ ヘドクリイロカワザンショウ (新称) ティンダハナタクリイロカワザンショウ ウフアガリクリイロカワザンショウ ウフアガリゴマオカチグサ ドームカドカド ダイトウオカチグサ (ダイトウヘソカド) ミヤコオカチグサ タマグスクオカチグサ (新称) ドナンオカチグサ ヨナグニカタヤマガイ オカクビキレ アソブイトクビキレ カガヨイクビキレ キザハシクビキレ ロウタキクビキレ アラムシロ ヤシマイシン近似種 オキナワヌカルミクチキレ カワコザラ エリマキガイ キカイキセルモドキ 沖縄島のウスチャイロキセルモドキ類似種群 センカクコギセル タカラノミギセル キンチャクギセル リュウキュウギセル サカツキノミギセル ミヤコオキナワギセル ダイトウノミギセル カズマキノミギセル コメツブダワラ ミヤコダワラ タワラガイ属の一種 イトカケマイマイ	<i>Umbonium suturale</i> <i>Phenacolepas</i> sp. <i>Cipangopaludina laeta</i> <i>Chamalycaeus okinawaensis</i> <i>Platyrhaphé hirasei hirasei</i> <i>Diplommatina (Sinica)</i> sp. A <i>Stenomelania costellaris</i> <i>Stenomelania crenulata</i> <i>Tarebia</i> sp. <i>Coliracemata katurana</i> <i>Sigaretomus</i> cf. <i>planus</i> <i>Allepithema nagayamai</i> <i>Angustassimineia</i> sp. A <i>Angustassimineia</i> sp. B <i>Angustassimineia</i> sp. C <i>Cavernacmella</i> sp. <i>Ditropisena</i> sp. A <i>Paludinellassimineia daitoensis</i> <i>Paludinellassimineia miyakoinularis</i> <i>Paludinellassimineia</i> sp. B <i>Paludinellassimineia</i> sp. B <i>Gammatricula shini</i> <i>Truncatella oagariensis</i> <i>Truncatella</i> sp. A <i>Truncatella</i> sp. B <i>Truncatella</i> sp. C <i>Truncatella</i> sp. D <i>Hima festiva</i> <i>Tomura</i> cf. <i>yashima</i> Pyramidellidae gen. & sp. <i>Ferrissia</i> cf. <i>nipponica</i> <i>Ptychalaëa dedecora</i> <i>Luchuena reticulata</i> <i>Luchuena</i> spp. <i>Euphaedusa senkakuensis</i> <i>Hemizaptyx takarai</i> <i>Luchuphaedusa callistochila</i> <i>Luchuphaedusa inclyta</i> <i>Selenoptyx inversiluna</i> <i>Stereophaedusa striatella</i> <i>Zaptyx daitojimana</i> <i>Zaptyx dolichoptyx</i> <i>Sinoennea densecostata</i> <i>Sinoennea miyakojimana</i> <i>Sinoennea</i> sp. <i>Plectopylis (Sinicola) hirasei</i>

リュウキュウウラジロヒメベッコウ (新称)	<i>Chalepotaxis kenjii</i>
クメジマベッコウ	<i>Nipponochlamys kumeensis</i>
キヌツヤベッコウ属の一種 (2)	<i>Nipponochlamys</i> sp. 2
キヌツヤベッコウ属の一種 (3)	<i>Nipponochlamys</i> sp. 3
キヌツヤベッコウ属の一種 (4)	<i>Nipponochlamys</i> sp. 4
キヌツヤベッコウ属の一種 (5)	<i>Nipponochlamys</i> sp. 5
カサシタラ	<i>Sitalina hirasei</i>
オオカサネシタラ	<i>Sitalina</i> sp.
グードベッコウ近似種	<i>Takemasaia</i> aff. <i>gudei</i>
ヘリトリケマイマイ	<i>Aegista marginata</i>
イトマンマイマイ	<i>Aegista scepasma</i>
タカラホソマイマイ	<i>Aegista takarai</i>
ヘソアキアツマイマイ	<i>Nesiohelix omphalina omphalina</i>
オオアガリマイマイ (サメハダヘソアキアツマイマイ)	<i>Nesiohelix omphalina bipyramidalis</i>
アツマイマイ	<i>Nesiohelix solida</i>
アマノヤマタカマイマイ	<i>Satsuma amanoi</i>
ヨナグニマイマイ	<i>Satsuma caliginosa picta</i>
オキナワヤマタカマイマイ	<i>Satsuma eucosmia eucosmia</i>
ウラキヤマタカマイマイ	<i>Satsuma hemihelva</i>
イヘヤマタカマイマイ	<i>Satsuma theyaensis</i>
クメジママイマイ	<i>Satsuma mercatoria kumejimaensis</i>
サキシマヒシマイマイ	<i>Satsuma sakishimana</i>
タダマイマイ	<i>Satsuma tadai</i>
ヒメシイノミミガイ	<i>Cassidula paludosa</i>
ナズミガイ	<i>Cylindrotis quadrasi</i>
コハクオカミミガイ	<i>Ellobium pallidum</i>
コベソコミミガイ (マルコミミガイ)	<i>Laemodonta</i> sp.
イソスジサルボウ	<i>Tosarca vellicata</i>
ヒナキンチャク	<i>Decatopecten plica</i>
コオキナガイ	<i>Laternula impura</i>
ジャングサマテガイ	<i>Solen soleneae</i>
ヒレナシジャコ	<i>Tridacna derasa</i>
オガタザクラ	<i>Aeretica tomlini</i>
ナミノコ	<i>Latona cuneata</i>
オオズングリアゲマキ	<i>Azorinus scheepmakeri</i>
ナガタママキ	<i>Mactra</i> cf. <i>opposita</i>
タイワンシラオガイ	<i>Circe scripta</i>
トウドウマリハマグリ	<i>Meretrix</i> sp. B
ツキカガミ	<i>Phacosoma aspera</i>
ユキスズメ	<i>Phenacolepas crenulata</i>
オカイシマキ	<i>Neritodryas cornea</i>
ウミヒメカノコ	<i>Smaragdia</i> sp.
イリオモテムシオイ (新称)	<i>Chamalycaeus</i> sp.
ヒメオキナワヤマタニシ (新称)	<i>Cyclophorus</i> sp. 2
オキノエラブヤマトガイ	<i>Japonia tokunoshimana okinoerabuensis</i>
ヨナグニヤマトガイ (新称)	<i>Japonia</i> sp. 1
ヤエヤマヤマトガイ (新称)	<i>Japonia</i> sp. 2
ケハダヤマトガイ種群	<i>Japonia</i> spp.
ヤエヤマゴマガイ	<i>Diplommatina (Sinica) insularum</i>
ヤンバルゴマガイ	<i>Diplommatina (Sinica)</i> sp. B
マドモチウミニナ	<i>Terebralia sulcata</i>
ヨシカワニナ	<i>Stenomelania juncea</i>
スグカワニナ	<i>Stenomelania uniformis</i>
タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>
ヤイマカチドキシタダミ	<i>Clenchiella iriomotensis</i>
ジーコンボツボ	<i>Chevallieria</i> sp.
ゴマツボモドキ (シリオレミジンナ)	<i>Hyala</i> cf. <i>bella</i>
サザナミツボ	“ <i>Nozema</i> ” <i>ziczac</i>
ヒメシラギク (ミジンシラギク)	<i>Pseudoliotia asteriscus</i>
ツブカワザンショウ (ヒメカワザンショウ)	<i>Assimineae estuarina</i>
ホラアナゴマオカチグサ種群	<i>Cavernacmella</i> spp.
ミニカドカド	<i>Ditropisena</i> sp. B
デリケートカドカド	<i>Ditropisena</i> sp. C
エレガントカドカド	<i>Ditropisena</i> sp. D
ウラウチコダマカワザンショウ	<i>Ovassimineae</i> sp.
アシヒダツボ	“ <i>Rugapedia</i> ” sp.

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

コーヒーイロカワザンショウ
 沖縄島のホラアナゴマオカチグサ類似種群
 アマミクビキレ
 カイグンボウクビキレ
 ヨロイノソデ
 オハグロガイ
 リュウキュウダカラ
 ネコガイ
 ヒメツメタガイ
 テンセイタマガイ
 ロウイロトミガイ
 ハブタエセキモリ
 ナマリレイシダマシ
 ウスイロバイ
 オカトリノコガイ (新称)
 ミノムシガイ
 ハイイロミノムシ
 チビツクシ (ムラクモツクシ)
 ヤタテガイ
 ツヤイモ
 ククリクチキレ
 ヒミツナメクジ
 ダイトウオカモノアラガイ
 イオウジマノミガイ
 ダイトウジマスナガイ
 ラッパガイ
 ミジンサナギガイ
 ヤエヤマクチミゾガイ
 ニシキキセルモドキ
 リュウキュウキセルモドキ
 クメジマキセルモドキ (新称)
 ニシキコギセル
 イトヒキツムガタノミギセル
 沖縄島のサカヅキノミギセル
 ミカヅキノミギセル
 オキナワギセル
 ヨナグニダワラ
 マサキベッコウ
 オキナワテラマチベッコウ (新称)
 ヤエヤマヒラベッコウ (新称)
 ウラウズタカキビ (新称)
 キヌツヤベッコウ属の一種 (6)
 ヨナグニベッコウ
 オーステンキビ
 エイコベッコウ
 タネガシマヒメベッコウ
 コシダカハチジョウヒメベッコウ (新称)
 ヨナグニシロベッコウ (新称)
 ヨナグニナメクジ (新称)
 ウロコケマイマイ
 トウガタホソマイマイ
 イッシキマイマイ
 ヤンバルヤマタカマイマイ
 シラユキヤマタカマイマイ
 オモロヤマタカマイマイ
 リュウキュウヒダリマキマイマイ
 トナキマイマイ
 イボイボナメクジ属の一種 (1)
 イボイボナメクジ属の一種 (3)
 ホソアシヒダナメクジ科の一種 (3)
 ホソアシヒダナメクジ科の一種 (4)
 ホソアシヒダナメクジ科の一種 (6)
 ナラビオカミミガイ
 サカマキオカミミガイ
 大東諸島のスジケシガイ類似種
 デンジハマシイノミ
 アツクチハマシイノミ

Assimineidae gen. A & sp.
 Assimineidae gen. B & spp.
Truncatella sp. E
Truncatella sp. F
Margistrombus septimus
Strombus urceus
Cypraea luchuana
Eunaticina papilla
Glossaulax cf. *vesicalis*
Notocochlis robillardi
Polinices mellosus
Epitonium lyra
Orania livida
Babylonia kirana
 Marginellidae gen. & sp.
Vexillum balteolatum
Vexillum gruneri
Vexillum rufomaculatum
Strigatella scutulata
Conus boeticus
Cossmannica aciculata
Aiteng mysticus
 “*Succinea*” sp.
Elasmias kitaiwojimanum
Gastrocopta (Sinalbinula) armigerella daitojimana
Hypselostoma insularum
Truncatellina insulivaga
Enteroplax yaeyamensis
Luchuena eucharistus
Luchuena luchuana
Luchuena sp.
Proreinia elegans
Pulchrptyx longiplicata
Selenoptyx cf. *inversiluna*
Selenoptyx noviluna
Stereophaedusa valida
Sinoennea yonakunijimana
Bekkochlamys masakii
Bekkochlamys sp. 1
Bekkochlamys sp. 2
Coneuplecta sp.
Nipponochlamys sp. 6
Nipponochlamys sp. 7
Parakaliella austeniana
Takemasia eikoe
Yamatochlamys tanegashimae
Yamatochlamys sp. 1
 Helicarionidae gen. & sp.
Meghimatium sp.
Aegista lepidophora
Aegista turrita
Satsuma caliginosa caliginosa
Satsuma eucosmia ssp.
Satsuma largillierti
Satsuma omoro
Satsuma perversa
Satsuma sp.
Granulilimax sp. 1
Granulilimax sp. 3
 Rathouisiidae gen. & sp. 3
 Rathouisiidae gen. & sp. 4
 Rathouisiidae gen. & sp. 6
Auriculastra duplicata
Blaumeria leonardi
Carychium sp.
Melampus (Detracia) ovuloides
Melampus cristatus

ウルシヌリハマシイノミ
 ニワタズミハマシイノミ
 キヌメハマシイノミ
 オウトウハマシイノミ
 コデマリナギサノシタタリ
 ヒメヒラシイノミ
 コンゴウイシマテ
 ヌバタマクラ
 サザナミクラ
 ホソスジヒバリガイ
 スエヒロガイ
 サンゴガキ
 ミナミマガキ
 ウチワガイ
 ウミギク
 オキナガイ
 ウラキツキガイ
 クチベニツキガイ
 カゴガイ
 アケボノガイ
 ヨコヅナケボリ (新称)
 セワケガイ
 オオツヤウロコガイ
 ダンダラマテガイ
 マテガイ
 ハートガイ
 イレズミザルガイ
 ゴイシザラ
 ホシヤマナミノコザラ
 リュウキュウクサビザラ
 ヒラセザクラ
 モチツキザラ
 チリメンジュロウジン
 リュウキュウサラガイ
 モモイロサギガイ
 コノハザクラ
 ウラキヒメザラ
 アオサギ
 オオトゲウネガイ
 ウネイチョウシラトリ
 ヒワズウネイチョウ
 ヒノデガイの一種
 ニッコウガイ
 キュウシュウナミノコ
 ウスムラサキアシガイ
 ミナトマスホガイ
 ナノハナガイ
 コバコガイ
 オキナワドブシジミ
 オフクマスオ
 リュウキュウアリソガイ
 トウカイタママキ
 オトメタママキ
 オオシマホクロガイ
 チトセノハナガイ
 ハナグモリ
 マダライオウハマグリ
 リュウキュウアサリ

準絶滅危惧 (NT)

ヤヅリスカシガイ
 クマノコ
 オオベソスガイ
 タオヤメユキズメ (ヌノメミヤコドリ)
 レモンカノコ
 ヒラマキアマオブネ
 アラハダカノコ
 クロズミアカグチカノコ

Melampus nucleolus
Melampus sculptus
Melampus sulculosus
Melampus sp.
Microtralia sp.
Pythia nana
Lithophaga canalifera
Modiolus aratus
Modiolus flavidus
Modiolus philippinarum
Pinna atropurpurea
Anomiostrea coralliophila
Crassostrea bilineata
Tucetona auriflua
Spondylus barbatus
Laternula anatina
Codakia paytenorum
Codakia punctata
Fimbria soverbii
Barrimysia cumingii
Borniopsis sp.
Byssobornia adamsi
Ephippodonta gigas
Solen kurodai
Solen strictus
Lunulicardia hemicardium
Vasticardium compunctum
Arcopaginula inflata
Cadella hosiyamai
Cadella smithi
Clathrotellina carnicolor
Cyclotellina remies
Heminetis plicata
Laciolina chloroleuca
Macoma nobilis
Phylloda foliacea
Pinguitellina robusta
Psammotreta praerupta
Quadrans gargadia
Serratina monomera
Serratina perplexa
Tellinella crucigera
Tellinella virgata
Donax (Tentidonax) kiusiuensis
Gari lessoni
Psammotaena inflata
Leptomya adunca
Montrouzieria clathrata
Sphaerium okinawaense
Distugonia decurtata
Mactra grandis
Mactra aff. *pulchella*
Mactra sp.
Oxyperas aspersa
Anatinella nicobarica
Glauconome chinensis
Pitar limatulus
Tapes literatus

Macroschisma cuspidatum
Chlorostoma xanthostigma
Lunella cinerea
Phenacolepas tenuisculpta
Clithon pauluccianum
Nerita planospira
Neritina asperulata
Neritina sp.

ヤエヤマヤマタニシ	<i>Cyclophorus radians</i>
リュウキュウヤマタニシ	<i>Cyclophorus turgidus</i>
イヘヤマタニシ (新称)	<i>Cyclophorus</i> sp. 1
クニガミヤマタニシ (新称)	<i>Cyclophorus</i> sp. 3
イトマンヤマタニシ (新称)	<i>Cyclophorus</i> sp. 4
ヤエヤマアツブタガイ	<i>Cyclotus taivanus peraffinis</i>
アオミオカタニシ	<i>Leptopoma taivanum</i>
ヤエヤマヒラセアツブタガイ	<i>Platyrhaphe hirasei yaeyamensis</i>
ミヤコゴマガイ	<i>Diplommatina (Sinica) immersidens</i>
クメジマゴマガイ	<i>Diplommatina (Sinica) kumejimana</i>
クニガミゴマガイ	<i>Diplommatina (Sinica) lyrata lyrata</i>
ヨナグニゴマガイ	<i>Diplommatina (Sinica) yonakunijimana</i>
ヤエヤマヘナタリ	<i>Pirenella asiatica</i>
ヘナタリ	<i>Pirenella nipponica</i>
イボウミニナ	<i>Batillaria zonalis</i>
サナギモツボ	<i>Finella pupoides</i>
ミジンゴマツボ	<i>Liroceratia sulcata</i>
ニセゴマツボ	<i>Pellamora reflecta</i>
エドガワミズゴマツボ (ウミゴマツボ)	<i>Stenothyra edogawensis</i>
オイランカワザンショウ	Assimineidae gen. C & sp.
マルシロネズミ	<i>Vanikoro helicoidea</i>
フタツアナスカシカシパンヤドリニナ	<i>Hypermastus ryukyuensis</i>
ネジマガキ	<i>Strombus gibbosus</i>
ヒダトリガイ	<i>Strombus labiatus</i>
ヒロクチリスガイ	<i>Mammilla melanostomoides</i>
アラゴマフダマ	<i>Naticarius onca</i>
イガムシロ	<i>Hebra horrida</i>
ヒメオリイレムシロ	<i>Niotha stoliczkana</i>
マタヨフバイ	<i>Telasco lurida</i>
クリイロムシロ (クリイロヨフバイ)	<i>Zeuxis olivaceus</i>
ヨウラクレイシダマン	<i>Muricodrupa aff. fiscella</i>
カノコミノムシ	<i>Vexillum sanguisuga</i>
コトツブ	<i>Eucithara marginelloides</i>
クダボラ	<i>Turris crispa</i>
スジイモ	<i>Conus figulinus</i>
コゲスジイモ	<i>Conus lotoisii</i>
ヤナギシボリタケ	<i>Acuminia penicillata</i>
カエンタケ	<i>Terebra chlorata</i>
カヤノミガイ	<i>Pupa sulcata</i>
コヤスツララ	<i>Acteocina koyasensis</i>
アンパルクチキレ	<i>Colsyrnola hanzawai</i>
ニライカナイゴウナ	<i>Leucotina</i> sp.
オオシイノミクチキレ	<i>Milda ventricosa</i>
リュウキュウヒラマキモドキ	<i>Polypylis usta</i>
リュウキュウノミガイ属の一種	<i>Pacificella</i> sp.
キバサナギガイ	<i>Vertigo hirasei</i>
スターズギセル	<i>Euphaedusa stearnsii stearnsii</i>
イリオモテコギセル	<i>Euphaedusa stearnsii iriomotensis</i>
ニセノミギセル	<i>Parazaptyx thaumatopoma</i>
スジイリオキナワギセル	<i>Stereophaedusa fasciata</i>
サキシマノミギセル	<i>Tyrannozaptyx adulta</i>
ヨワノミギセル	<i>Tyrannozaptyx deminuta</i>
ツヤノミギセル	<i>Tyrannozaptyx polita</i>
ツヤノミギセル近似種	<i>Tyrannozaptyx</i> sp.
ツヤカサマイマイ	<i>Videnoida cathcartae</i>
ヒメカサキビ	<i>Trochochlamys subcrenulata</i>
ベッコウマイマイ	<i>Bekkochlamys perfragilis</i>
ボニンキビ	<i>Liardetia boninensis</i>
キヌツヤベッコウ属の一種 (1)	<i>Nipponochlamys</i> sp. 1
グードベッコウ	<i>Takemasaia gudei</i>
ホソスジベッコウ (新称)	<i>Yamatochlamys</i> sp. 2
ベッコウマイマイ科の一種	Helicarionidae gen. & sp.
シュリケマイマイ	<i>Aegista elegantissima</i>
クロイワオオケマイマイ	<i>Aegista mackensii</i>
ナガシリマルホソマイマイ	<i>Aegista meiacoshimensis</i>
オオベソマイマイ	<i>Aegista vermis</i>
パンダナマイマイ	<i>Bradybaena circulus</i>

イヘヤタメトモマイマイ	<i>Bradybaena iheyaensis</i>
ハンミガキマイマイ	<i>Satsuma ammiralis</i>
クロイワヒダリマキマイマイ	<i>Satsuma yaeyamensis</i>
ドロアワモチ	<i>Onchidium</i> sp.
キボシアワモチ	<i>Paraonchidium</i> cf. <i>fungiforme</i>
ヒメキボシアワモチ	<i>Paraonchidium</i> cf. <i>keiense</i>
ゴマセンベシアワモチ	<i>Platevindex</i> sp.
ホソアシヒダナメクジ科の一種 (1)	Rathouisiidae gen. & sp. 1
ホソアシヒダナメクジ科の一種 (2)	Rathouisiidae gen. & sp. 2
ホソアシヒダナメクジ科の一種 (5)	Rathouisiidae gen. & sp. 5
ホソアシヒダナメクジ科の一種 (7)	Rathouisiidae gen. & sp. 7
カタシイノミミミガイ	<i>Cassidula crassiuscula</i>
ウラシマミミガイ	<i>Cassidula mustelina</i>
ヘゴノメミミガイ	<i>Cassidula schmackeriana</i>
クロヒラシイノミ	<i>Pythia pachyodon</i>
マダラヒラシイノミ	<i>Pythia pantherina</i>
イシワリマクラ	<i>Arenifodiens vagina</i>
クログチ	<i>Xenostrobus atratus</i>
ワシノハガイ	<i>Arca navicularis</i>
サンゴナデシコ	<i>Coralichlamys madreporarum</i>
ヒナノヒオウギの一種	<i>Mimachlamys</i> cf. <i>asperulata</i>
ソトオリガイ	<i>Laternula marilina</i>
ヒロクチソトオリガイ	<i>Laternula truncata</i>
カブラツキガイ	<i>Anodontia edentula</i>
ショウゴインツキガイ	<i>Anodontia philippiana</i>
シワツキガイ	<i>Austriella corrugata</i>
チヂミウメ	<i>Chavania striata</i>
ツキガイ	<i>Codakia tigerina</i>
コヅツガイ	<i>Eufistulana grandis</i>
ヒノマルズキン	<i>Anisodevonia ohshimai</i>
ホシムシアケボノガイ	<i>Barrimysia siphonosomae</i>
ユウレイウロコガイ (新称)	<i>Ephippodontomorpha hirsuta</i>
ミナミウロコガイ	<i>Lepirodes layardi</i>
コハクマメアゲマキ	<i>Lepirodes porulosus</i>
ユンタクシジミ	<i>Litigiella pacifica</i>
ツバサマメアゲマキ (新称)	<i>Phlyctaenachlamys lysiosquillina</i>
セワケハチミツガイ	<i>Pythina deshayesiana</i>
フィリピンハナビラガイ	<i>Salpocola tellinoides</i>
ベッコウマメアゲマキ	<i>Scintilla philippinensis</i>
バライロマメアゲマキ	<i>Scintilla rosea</i>
ツマベニマメアゲマキ	<i>Varotoga anomala</i>
リュウキュウマテガイ	<i>Solen sloanii</i>
ホソバラフマテガイ	<i>Solen</i> sp.
カワラガイ	<i>Fragum unedo</i>
ハツヒザクラ	<i>Arcopella isseli</i>
ハスメザクラ	<i>Jactellina transcalpta</i>
トガリユウシオガイ	<i>Jitlada culter</i>
リュウキュウザクラ	<i>Jitlada philippinarum</i>
ミクニシボリザクラ	<i>Loxoglypta compta</i>
アマサギガイ	<i>Macalia bruguieri</i>
ダイミョウガイ	<i>Pharaonella perna</i>
トンガリベニガイ	<i>Pharaonella rostrata</i>
チガイザクラ	<i>Scissulina dispar</i>
ネコジタザラ	<i>Scutarcopagia linguafelis</i>
ヒラザクラ	<i>Tellinides ovalis</i>
ヘラサギガイ	<i>Tellinides timorensis</i>
ハスメヨシガイ	<i>Gari squamosa</i>
ウラジロマスホ	<i>Gari togata</i>
シロナノハナガイ	<i>Leptomysa trigonalis</i>
ザンノナミダ	<i>Semelangulus lacrimadugongi</i>
ミナミキヌタアゲマキ	<i>Solecortus philippinarum</i>
カモジガイ	<i>Lutraria arcuata</i>
ユウヤケバカガイ	<i>Mactra</i> cf. <i>artensis</i>
ユキガイ	<i>Meropesta nicobarica</i>
クチバガイ	<i>Coecella chinensis</i>
オイノカガミ	<i>Bonartemis histrio</i>
フジイロハマグリ	<i>Callista erycina</i>

<掲載種リスト>

カミブスマ	<i>Clementia papyracea</i>
ダテオキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>
スダレハマグリ	<i>Marcia japonica</i>
ウスカガミ	<i>Pardosinia amphidesmoides</i>
ユウカゲハマグリ	<i>Pitar citrinus</i>
イオウハマグリ	<i>Pitar sulfureus</i>
トモシラオガイ	<i>Redicirce sulcata</i>
オウギカノコアサリ	<i>Veremolpa levicostata</i>
絶滅のおそれのある 地域個体群 (LP)	
情報不足 (DD)	
沖縄島のゴマオカタニシ	<i>Georissa japonica</i>
ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona achates</i>
ウニヒザラガイ	<i>Acanthopleura spinosa</i>
ウロコイシマキ	<i>Clithon squarrosus</i>
シリコケゴマガイ	<i>Diplommatina (Sinica) ventriosa</i>
スエヒロヘナタリ	<i>Pirenella microptera</i>
ウズツボ	<i>Dolicrossea</i> sp.
イワカワトキワガイ	<i>Malea pomum</i>
オリエレヨフバイ	<i>Nassarius arcularia</i>
キツネノムシロ	<i>Niotha venusta</i>
ヒメヒラマキミズマイマイ	<i>Gyraulus</i> sp.
レンズヒラマキ (クルマヒラマキ)	<i>Helicorbis</i> cf. <i>cantori</i>
リュウキュウノミガイ	<i>Pacificella rucwana</i>
リュウキュウカドベッコウ	<i>Luchuconulus okinawanus</i>
マルキビ	<i>Parakaliella bimaris</i>
イボイボナメクジ属の一種 (2)	<i>Granulilimax</i> sp. 2
コウモリミミガイ	<i>Cassidula vespertilionis</i>
カドバリコミミガイ	<i>Laemodonta bella</i>
イササコミミガイ	<i>Laemodonta octanfracta</i>
ヤマホトトギス	<i>Musculus japonica</i>
オボロヅキ	<i>Monitilora simplex</i>
ガタヅキ (コハギガイ)	<i>Arthritica</i> cf. <i>reikoe</i>
ナタマメケボリガイ	<i>Borniopsis ochetostomae</i>
アマミスジホシムシモドキヤドリガイ (新称)	<i>Nipponomysella</i> aff. <i>subtruncata</i>
オサガニヤドリガイ	<i>Pseudopythina macrophthalmensis</i>
チドリマスオ	<i>Donacilla picta</i>
(和名) なし	<i>Diplodonta</i> sp. A
(和名) なし	<i>Diplodonta</i> sp. B
リュウキュウヒルギシジミ	<i>Geloina expansa</i>